

平成 27 年第 3 回糸魚川市議会定例会会議録 第 2 号

平成 27 年 6 月 12 日（金曜日）

議事日程第 2 号

平成 27 年 6 月 12 日（金曜日）

午前 10 時 00 分 開議

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第 1 会議録署名議員の指名

日程第 2 一般質問

応招議員 19 名

+

出席議員 19 名

1 番	吉	川	慶	一	君	2 番	笠	原	幸	江	君
3 番	斉	木		勇	君	4 番	渡	辺	重	雄	君
5 番	倉	又		稔	君	6 番	保	坂		悟	君
7 番	田	中	立	一	君	8 番	古	川		昇	君
9 番	中	村		実	君	10 番	大	滝		豊	君
11 番	高	澤		公	君	12 番	伊	藤	文	博	君
13 番	田	原		実	君	15 番	吉	岡	静	夫	君
16 番	新	保	峰	孝	君	17 番	五	十	嵐	健	一
18 番	松	尾	徹	郎	君	19 番	樋	口	英	一	君
20 番	古	畑	浩	一	君						

欠席議員 0 名

説明のため出席した者の職氏名

+

市 長 米 田 徹 君
 総 務 部 長 金 子 裕 彦 君
 産 業 部 長 斉 藤 隆 一 君
 企 画 財 政 課 長 藤 田 年 明 君
 能 生 事 務 所 長 原 郁 夫 君
 市 民 課 長 池 田 正 吾 君
 福 祉 事 務 所 長 加 藤 美 也 子 君
 交 流 観 光 課 長 渡 辺 成 剛 君
 建 設 課 長 串 橋 秀 樹 君
 ガ ス 水 道 局 長 清 水 保 雄 君
 教 育 長 竹 田 正 光 君
 教育委員会こども教育課長 山 本 修 君
 教育委員会文化振興課長
 歴史民俗資料館長兼務
 長者ヶ原考古館長兼務 磯 野 茂 君

副 市 長 織 田 義 夫 君
 市 民 部 長 田 原 秀 夫 君
 総 務 課 長 岩 崎 良 之 君
 定 住 促 進 課 長 渡 辺 勇 君
 青 海 事 務 所 長 大 瀬 信 明 君
 環 境 生 活 課 長 五十嵐 久 英 君
 健 康 増 進 課 長 山 本 将 世 君
 商 工 農 林 水 産 課 長 斉 藤 孝 君
 会 計 管 理 者 横 田 靖 彦 君
 会 計 課 長 兼 務
 消 防 長 大 滝 正 史 君
 教 育 次 長 竹之内 豊 君
 教育委員会こども課長兼務
 教育委員会生涯学習課長
 中央公民館長兼務
 市民図書館長兼務 佐々木 繁 雄 君
 監 査 委 員 事 務 局 長 森 正 人 君

事務局出席職員

+

局 長 小 林 武 夫 君
 係 長 室 橋 淳 次 君

次 長 松 木 靖 君

+

午前 10 時 00 分 開議

○議長（倉又 稔君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員はありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第 1．会議録署名議員の指名

○議長（倉又 稔君）

日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、2 番、笠原幸江議員、12 番、伊藤文博議員を指名いたします。

+

日程第２．一 般 質 問

○議長（倉又 稔君）

日程第２、一般質問を行います。

発言通告者は１０人ですが、議事の都合により本日５人、１５日５人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き１人３０分であります。

所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡潔に、要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるようご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

田原 実議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

おはようございます。

糸魚川２１クラブの田原 実です。

今回の私の質問の１は、地域医療についてです。

８年前の２００７年６月、姫川病院の突然の閉院は、糸魚川市民が地域医療への不信を持つこととなった大きな出来事であり、そのことを忘れないために私は毎年６月に、地域医療の状況と課題について伺い、市民を守り、糸魚川の未来をつくる医療の確保と充実を訴え続けております。

質問の２は、新幹線開業への対応です。

私は新幹線開業への対応をテーマに、昨年の９月議会から連続シリーズで伺ってきました。今回はその４ということで、もし人気テレビ番組「ブラタモリ」などの撮影の誘致をするならばという切り口から、糸魚川の情報発信の企画、構成、演出、そして知名度アップがちゃんとできているかどうかについて伺います。

では、事前に提出しました発言通告書に基づき、以下、質問をいたします。

１、糸魚川地域医療の現状と課題、糸魚川市の対応について。

(１) 糸魚川圏域の医師・看護師数の現状と対策などについて伺います。なお、データは最近のもので説明願います。

(２) ３６５日２４時間救急医療体制の現状と対策などについて伺います。

(３) 地域医療への不満など市民の声とその分析、対策などについて伺います。

(４) 子どもの命を守る取り組みについて、小学校などでの感染防止対策について伺います。

(５) 保健センターの改修工事と活用について、健康教室や健康運動教室などへの取り組みについて伺います。

(６) 糸魚川市の高齢化率と認知症患者の増大について、その対策などについて伺います。

２、人気テレビ番組「ブラタモリ」などの撮影誘致、放映による糸魚川からの情報発信の取り組みについて 新幹線開業への対応（その４）

- (1) 北陸新幹線開業に対応した金沢や富山の番組撮影誘致についてどう分析していますか、それに比較して糸魚川市の対応はどうであったのか、伺います。
 - (2) 「糸魚川のまち歩き」を観光客や市民が楽しむ仕掛けはありますか、また、その素材はどのようなものがあると考えていますか、伺います。
 - (3) 相馬御風と糸魚川文化、糸魚川駅周辺の中心市街地の歴史的な街並み、また、筒石地区集落の特徴ある漁村などを見て、学んで、楽しむ仕掛けはありますか、伺います。
 - (4) 糸魚川ジオパークの特徴的な地形地質やヒスイをはじめとする豊富な鉱物鉱石などを学び楽しむ仕掛けはありますか、伺います。
 - (5) 人気テレビ番組「プラタモリ」を見るにつけ、糸魚川こそ撮影地として取り上げてほしいと感じています。これまで放送局や番組制作会社などへの働きかけをしてきたか、伺います。
- また、今後の糸魚川ジオパークを活かした誘客の戦略として、著名人で、断層や地質、歴史、鉄道などへの造詣の深いタモリさんに糸魚川へおいでいただき、「糸魚川の個性と面白さ」をマスコミ、口コミで広めていただくことが重要と考え、提言しますがいかがですか、伺います。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

田原議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、本年5月現在で、医師は64人、看護師は平成24年12月の調査で273人となっており、県平均より少なく、不足している状況であります。このため医師養成資金や医療技術者修学資金貸与などによりまして、確保に努めているところであります。

2点目につきましては、医師会や糸魚川総合病院等にご協力をいただき実施しておりますが、救急医療にかかわる医師の確保が課題であり、富山大学などに訪問いたしまして、要望活動を行っております。

3点目につきましては、糸魚川総合病院において常勤の医師が不在でありまして、診療科に対して不安の声をお聞きいたしております。厳しい状況であります、引き続き関係機関と連携をいたしまして、要望活動を行ってまいります。

4点目につきましては、学校では感染症予防の啓発を行い、うがい、手洗いを励行いたしております。発生時には関係機関へ報告をいたしまして、情報共有を図っております。

また、流行予防のため児童生徒の健康観察や欠席率に留意をいたしまして、早期発見と適切な措置に努めております。

5点目につきましては、今回の改修にあわせてエレベーターの設置など、利用しやすい施設に整備をいたしましたので、今年度から新たに地区運動教室や、ころばん塾の会場といたしまして利用させていただいております。

6点目につきましては、本年4月現在、高齢化率は36.2%であります。介護認定者のうち約

67%の方が認知症、または認知症の疑いがあり、高齢者福祉計画と国の新オレンジプランに基づいて認知症サポーター養成講座や認知症カフェ定期相談会などを実施いたしております。

2番目の1点目につきましては、金沢、富山は県庁所在地であり、特に金沢は以前から観光地で、新幹線の終点ということから番組放映が多かったと感じております。

当市では、新幹線開業に向け各テレビ局への情報提供を行う中で、フォッサマグナミュージアムやジオパルを中心に全国放送で取り上げていただいたと思っておるわけでございまして、非常に多く取り上げていただいたと感じております。

2点目につきましては、糸魚川の町歩きを楽しんでいただけるよう、町歩きマップやパンフレットを作成し、歴史的な町並みや塩の道を紹介いたしております。

3点目につきましては、御風宅や大紅屋などで各種のイベントなどを通じまして、特色のある糸魚川の文化や町並みを学び、楽しんでいただけるようなきっかけづくりを進めていきたいということを考えております。

また、筒石集落につきましては、魅力ある漁村の路地景観を残しておりますが、住環境と接近していることから地元とのコンセンサスが必要と考えております。

4点目につきましては、フォッサマグナミュージアムでの豊富な種類の岩石の展示や、ジオサイトでの解説板の設置など、ジオパークの理解を深める取り組みを行っております。

5点目につきましては、これからも多くの著名人から糸魚川へお越しいただき、メディアを通じ糸魚川のよさを発信していただけるよう情報提供をしていきたいと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。

○13番（田原 実君）

では、地域医療について再度の質問です。

医師、看護師が少ない糸魚川圏域の状況、医師・看護師数の他地域との比較、県や全国の人口10万人当たりの医師、看護師との比較の最新のデータ、ここ数年の経緯と将来の見通しなど分析しているか、改めて担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

おはようございます。お答えいたします。

医師、看護師の調査につきましては、2年に一度の調査でございまして、直近では平成26年12月の調査でございしますが、その数字については、現在、公表されておりませんので、申しわけございませんが、平成24年12月の結果で、若干、申し上げさせていただきます。

医師数につきましては、全国平均で227人、県平均で182人、当市は121人となっておりまして、20市の中では11番目というような数字でございます。

看護師につきましては、全国平均 7 9 6 人、県平均が 8 4 3 人、当市は 5 8 8 人で、2 0 市の中では 1 4 番目というような位置づけでございます。

なお、最近の数字がございません関係から、市の聞ける箇所に聞き取り調査をさせていただいたものでは、本年 5 月末の現在の医師数では、先ほど市長答弁で申し上げましたように 6 4 人というような形になっておりまして、平成 2 4 年の 1 2 月の調査では 5 8 人ということでございますので、6 人多いというような状況でございます。ただ、これにつきましては、本年、糸魚川総合病院のほうに研修医で 8 名が勤務されていて、これが大きく影響しているものでございます。

これまでの推移と今後の見通しについてでございますが、全国的に実施しております直近の調査の結果では、医師数は病院の常勤の減少から、やはり減少傾向というようなことが言えるかと思っておりますし、ただ、これにつきましては、当市が取り組んでおります医師養成資金貸与事業によりまして、本年 2 人の方が研修医という形で糸魚川総合病院に勤務されておりますし、来年度につきましても勤務される方がおられる予定でございます。

看護師につきましては、数字的には増加傾向でございますが、介護保険施設等の新たな需要等もある関係から、やはり不足しているというような状況でございます。これにつきましても医療技術者修学資金貸与事業等をする中で、確保に努めさせていただいてるところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13 番 田原 実君登壇〕

○13 番（田原 実君）

ありがとうございました。

公表されている数字は、もう 3 年前のものということですが、担当課のほうでそれなりに分析をしてくださっていると。そして今の報告にありましたとおり糸魚川総合病院では、研修医がふえているということですね。やはり若いお医者さんが医療機関にいるということは、非常に大事なことだと思います。それは糸魚川市の支援もあってということだと思っております。こういった取り組みをさらに押し進めていただきたい。

それで糸魚川市の医師や医療技術者の確保対策、今どのくらいの予算をかけているのか、市の取り組みについて改めて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

当市の今年度の予算でご説明をさせていただきますが、医師養成資金の貸し付けにつきましては 1,080 万円、医療技術者の資金貸し付けにつきましては 1,200 万円、当市を臨床研修の対象といたしました研修の補助金といたしまして 100 万円、高度医療技術者人材育成事業といたしまして 100 万円を計上いたしております。また、このほかに直接、医師確保ということではございませんが、病院の機器への補助という形で 1,995 万円を予算計上しております、こういった

医療環境の向上によって医師確保に努めているところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

行政からの支援も一生懸命やってることが確認できました。

それで糸魚川総合病院は新潟県でありながら、新潟大学からの医師派遣ルートというのは細くなっておりますし、主に富山大学からの派遣に頼っているという現状であると思うんですけども、これがいつまで続くのかということですね。続けていただくために糸魚川市からも、さまざまな医療の研究等への支援をしてと思いますけども、この現状、それから今後の見通しというものを、もしお考えであればお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

この５月現在で、富山大学から糸魚川総合病院のほうに派遣をいただいておりますのが１５人いらっしゃいます。また、新潟大学からは３名というような状況でございます。

県内の医師の不足している状況は、当市だけでなく全県的な部分でもございますし、当市の県内での地理的位置関係等を考えますと、今後も富山大学との連携強化等は必要なものでございますし、そういったものを継続していくというような考えでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

姫川病院閉院の原因に、医師派遣の仕組みが変わって、医師不足が深刻になったということがあったと思います。あれから８年、今もなお全国的に医師不足の状況が深まる中、いつまで糸魚川総合病院に医師が派遣されてくるとは考えにくい。相当な危機感を持って情報収集と、状況分析をしなければいけないのではないかと。県というくくりでは糸魚川の医療圏域は上越圏域に含まれているから、上越を拠点化すればそれでいいとなるし、新潟大学は大学の医師、研修医確保を優先するでしょう。富山県は富山大学での医師、研修医確保を優先するでしょう。いつまで県境を越えて糸魚川へ医師派遣をするんだとなるのではないかと。このことを心配しております。するとお医者さんは、どこから糸魚川に来てくれるのか。これは医療の問題だけでなく、政治の大きな問題だとして、これまで市長、行政が対応してきたわけですけども、もし、またかつてのような医師の配置や派遣の制度改正があれば、糸魚川は相当深刻な状況に追いやられるのではないかと。その点、市長、行政の認識を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

まさしく議員ご指摘のとおりであるわけであります。我々といしましては、そういったことにならないように、今、いろいろ手だてを立てておるわけですが、環境は決していい方向にいった状況ではございません。この医師の研修制度が変更したときには、本当に大きく変化したわけですが、それが5年たった戻ってくるというようなそのときの状況であったわけですが、それは戻るどころか、さらに非常に悪い環境になっているという状況でございますので、そういったところをどのように進めていくかの中においては、ことしの3月14日に北陸新幹線が開業したというところが、今、非常に直接、広くおいでいただける環境が整ったということで、今、糸魚川総合病院さんと連携をとりながら、その枠を広げていけないかということも検討しながら進めております。

基本的には、富山大学とのパイプを強めていながら、そういう方向も視野に入れながら、今、活動しなくちゃいけないという状況であろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

市長からは厳しい状況ではないかと、しかし頑張っているよというお話をいただきました。

国が医療の専門性を高めるために、2年の研修期間の後、専門の研修をするために、今度は大学病院など大きな施設で、そういったことをやっていくという施策を進めているらしいということをやっと私、聞きました。そうすると、また糸魚川から医師が引き上げられて、深刻な医師不足になっていくということが心配されるわけですね。そういうことになったとしても、市はしっかり対応してくださるかどうかというのを、もう一度、市長に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

そのときに糸魚川は、じゃあ何をなすべきかというところを問われる部分だろうと思っておりますが、やはり医師はどういう状況が変わろうと、非常に有名であったり、そしてまた優秀な病院で研修をしたいという、またそこで学びたいということが多いわけですので、糸魚川総合病院に対しまして、またいろんな支援をする中で、魅力のある病院となるよう努めておるわけですが、また、最近では地域医療という分野についても関心を持つ人たちも多くなっておるわけですので、そういった分野で糸魚川総合病院は非常に学びやすく、また魅力のある病院だという方向づけを、一緒になって取り組んでいかなきゃいけないだろうと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

糸魚川総合病院が若い医療の人材を呼び寄せる、マグネットホスピタルとしての役割を果たすような、そういったことへの取り組みに応援をしていきたいと、こういうお話であったと思います。よろしく願いいたします。

医師の不足から生じる大きな問題というのを考えますと、救急医療体制が確保できないこと、それから2次救急対応の存続ができないことであります。市民が安心して、ここ糸魚川で暮らすためには、2次救急医療対応が圏内で不可欠であります。市長、行政の力で、何としても糸魚川医療圏域での救急医療体制を確保していただきたい。市の取り組み、ことしの予算などではどうなっているか、改めて伺いたいと思います。担当課さん、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

今年度の予算の中におきましては、救急医療にかかわるものとしていたしまして病院群輪番制運営事業の補助金、また、救急医療にかかる医師の確保に対する補助金など、合わせまして救急医療対策事業としていたしまして9,090万円。また、そのほかに歯科のほうの関係で、上越休日歯科センター運営事業負担金という形で33万4,000円を計上させていただいております。

また、今後の取り組みにつきましては、やはり確かに常勤医師の不足の中から、救急に携わっていただくお医者さんも少なくなっている状況でございまして、先ほど市長の答弁にもございましたように北陸新幹線開業を生かす中で、県外から救急医療に携わっていただける医師を確保できないかということで、今、検討を進めているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

本当にそこら辺のマッチングが一番の課題かなと思っています。

少し厳しい話をしていきたいと思いますが、糸魚川総合病院の救急外来棟建設は、米田市長も一生懸命やっていただき、また、市からの大きな支援もあって実現したことと思います。

問題は医師が不足する中での受け入れ体制ですけども、現在どのような状況になっているか。また、市外の医療機関への搬送、それから救命率、そういったものについてはどのような状況か。担当課で調査し、分析してあることがあれば、お話をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

大滝消防長。〔消防長 大滝正史君登壇〕

○消防長（大滝正史君）

お答えします。

救急車による傷病者の受け入れで申し上げますと、平成24年から平成26年までの3年間では、毎年1,800人前後の人が救急搬送をされておりますが、そのうちの約90%が糸魚川総合病院で受け入れをしていただいております。救急外来棟、地域救急センターの運用開始や医師会などのご協力によりまして、病院内におけるよりスムーズな受け入れ体制、また、365日24時間の受け入れ体制が図られているものと捉えております。

市外医療機関への救急搬送につきましては、同じく平成24年からの3年間では、搬送人員の7から9%台で推移をしており、大きな変動はないというところでございます。

また、救命率につきましては、心肺停止をした傷病者に対する社会復帰をした人の割合を1つの指標として示しておりますけれども、当消防本部では心肺停止者数、また、社会復帰者数、それぞれの数値が比較的少ないということから、年によりこの救命率が大きく変動をしておる状況であります。ちなみに平成24年からの3年間では、救命率は1から4%台で推移をしております。この救命率の向上が目標であるわけですが、一概には申し上げられませんが、必ずしも高い数値ではないという状況であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

市民の皆さんの声を伺いますと、やはり糸魚川総合病院が救急外来棟を建設して医師確保に努めていると。そこはいいんだが、実際、お医者さんがいないので、救急車で搬送されたんだけど、市外の病院へまた再搬送された。それによって、手おくれになったのではないかという声はどうしてもあるわけですね。糸魚川圏域の中での2.5次救急を担う拠点として、糸魚川総合病院の救急外来棟を建設するということであったのですが、なかなかその目的が果たされていないのではないかとこの声もあります。そこら辺は、行政としてはどのようにお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

確かに今、議員のご指摘にございましたように、また、先ほど消防長が申し上げましたように、市外への搬送等の事例も確かにございます。ただ、その傷病の程度によって、やはり大きな病院で、専門性の高いところで受けたほうが、より助かるというようなものもございますので、そういうふうな区分けの中でしておりますし、ただ、なるべく議員さんがおっしゃいますように、2.5次救急を維持する中で、糸魚川総合病院の中でそういったものができるような体制が整えばベストかと思っておりますが、なかなか今の状況では難しい状況でございます。その辺に向けて、頑張らせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

確かに助からなかった命もある。しかしながら、助けていただいた命もたくさんあるわけですね。そういったことで糸魚川総合病院が、救急受け入れの対応の拠点として頑張っているということなんですけども、市長のほうから何かメッセージはありますか。こういう今の厳しい状況だけでも、糸魚川の医療を守っていくために、そこら辺の取り組みということを市民に理解してほしいというようなことがあれば、お話をいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

非常に我々糸魚川市において、糸魚川総合病院の果たす役割というのは大きいわけではありますが、しかし厚生連全体で見ますと、非常にまた厳しい環境でもあるというのも、今、お伺いさせていただいて、非常に我々といたしましても危機感を持っております。どうあればこの糸魚川総合病院が地域の基幹病院として、本当に十分な役割を果たしていけるのかというところを、しっかり考えなくてはいけないなと思ってる次第であります。でありますから厚生連の病院というところではなくて、もう糸魚川の糸魚川総合病院という捉え方で、今、我々も支援をさせていただきましたし、連携をとらせていただいております。

また、救急医療に関しましてはドクターヘリ、新潟県は2台目をということで、今、お考えいただいとるわけでございますが、それについても糸魚川へというわけにはいかないにいたしましても、上越へやはり置くべきという形の中で妙高市と連携をとって、今、要望させていただいております。1つしかない医療施設を十分に果たせなければ、外部で何かならないかというような考え方も今進めておるわけでございますが、厳しい医療環境、特に医師不足がまだまだ続く中においては、厚生連のこの医師不足もやはり大きくかかわってくるのかなという危機意識で、我々この平成27年、また一踏ん張りも二踏ん張りもしなくちゃいけないと思ってる次第であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

市長、ありがとうございました。

では、続いて看護師不足への対策について伺います。

地域にお住まいされ、一時、医療の現場を離れている、いわゆる潜在看護師の掘り起こしに市も取り組んでいただいていると思いますが、最近の状況はいかがでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

潜在的看護師の再就職支援につきましては、平成26年度から取り組みをさせていただいたものでございまして、糸魚川総合病院のほうに講習会等依頼をし、それに対する行政が支援をしているという状況でございます。

ただ、残念ながら平成26年度については、広報等を通じる中で周知をさせていただきましたが、応募がなかったというような状況でございまして開催しておりませんが、平成27年度におきましては4月の広報、また、6月にも広報、また人とのつながりの中でのネットワークを活用する中で、そういった掘り起こしに努めていきたいというように思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

では次に、新人の看護師の育成と、それから地元医療機関での就労、それぞれについて行政からの支援策があれば、いま一度教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

新人看護師の研修につきましては、それぞれの医療機関の中で行っていただいているものというふうに思っております。

また、地元医療機関への就職支援につきましては、先ほど来、お話しておりますように医療技術者修学資金貸与事業の中で、看護師資格の方に対しても貸与いたしております。それらの貸与者が今現在、約50%が地元のほうへお戻りいただいているような状況でございます。そういった方々が1人でも多く就業していただけるような取り組みを、進めてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

連携による看護師の確保についても伺います。

上越の看護大が糸魚川市と連携して、住民の健康増進をサポートしています。これが不足している看護師確保につながればと、糸魚川市健康増進課は期待し、取り組んでいると思いますが、看護師はふえたのか、現状と課題を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

県立看護大学の連携を始めてから、そこを卒業されて市内で看護師として就職された実績は、現在のところ残念ながらございません。やはり毎年、看護大の生徒のほうが当市を地域医療の研修の場としておいでいただいておりますので、その中で当市のよさ、また、そういったものを通じて、興味を持っていただくように取り組んでいかなきゃいけないというふうに認識してるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

今後は糸魚川の医療の質を高めるためには、専門の資格を持つ看護師さんを育てる必要があります。それでどのような専門の資格があるのか、また、その取得にどういったことが必要なのか、おわかりであれば教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

看護師の資格といたしましては、認定看護師、専門看護師等がございます。

認定看護師につきましては、熟練の看護技術を用いて高い水準での看護を実践する、看護実践を通じて看護職員に対する指導を行う、看護職の相談を行うというような形にされておまして、それぞれ２１の専門分野に分かれております。具体的には、救急看護認定看護師や緩和ケア認定看護師などがございます。

資格の取得につきましては、認定看護師教育機関で６カ月、６１５時間以上の講義等を受講し、認定看護師試験に合格する必要があります。

また、専門看護師につきましては、役割としては認定看護師にプラスをいたしまして、保健医療分野でのその間の調整や、看護職に対する教育的役割、また、看護実践場におきます研究活動を行うというようなことにされておまして、こちらにつきましても、それぞれ１１の専門分野に分かれており、具体的には精神看護専門看護師や母性看護専門看護師などがございます。

こちらの資格取得につきましては、看護系大学院修士課程を終了後、専門看護教育課程の所定の単位を修得している方が試験に合格すると認められるというような状況でございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

ありがとうございました。

+

それでやはり看護師さんが不足する中で、さらにこういった専門性の資格を持つことを目指して地域医療に貢献したいという、そういう看護師さんがいらっしゃるとすれば、それはやはり応援していきたいと思いますよね。糸魚川に住み、糸魚川の医療機関に勤め、そして専門の看護の研修を学びたいという方がいらっしゃるとすれば、新幹線も開業して、そういう研修機関との距離も縮まってきたわけですから、そういうモチベーションを持っている看護師さんには、市としても積極的に応援をしていくべきではないかと。もし資格を取得していただければ、医療の現場に必ずよい効果が生まれると思います。そういった方への資格取得のためのサポート支援、市でも予算をつけて応援していけばどうかと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

市におきましては平成25年度から、高度医療技術者人材育成支援事業というようなものを行っておりまして、このものは病院勤務の医師の研修や看護職員の資格取得に対する補助金でございまして、今、議員がおっしゃったような資格取得の部分につきまして、この補助制度の中の対象になるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

せっかくですから、今のその補助対象となるところのものでどういったことなのか、もう少し細かく教えていただければ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

補助対象の経費といたしましては、旅費、宿泊費、入学金、授業料、実習費、教材費等が対象になりまして、補助率については、2分の1というような形になっております。補助の上限につきましては、看護師の場合につきましては40万円、医師につきましては60万円というような上限の縛りの中で、補助させていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

わかりました。

では次に、地域医療への不満など市民の声への行政対応について、今、行政に寄せられている地

域医療の不足への市民の声はどのようなものか。また、その行政対応について、担当課より伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

平成26年度で、市長へのご意見直通便という形で、医療に対してご意見をいただきましたのは1件でございまして、内容的には耳鼻咽喉科等の常勤医の確保、また、耳鼻咽喉科等の診療所の開院等に対するご意見でございました。

その他、健康増進課のほうにお話をいただいた意見といたしまして、病院の診療に対する不信というような形で2件、直接お聞きをいたしておりますし、病院の設備、またその他のご意見を2件お聞きをいたしております。

耳鼻咽喉科等の常勤医の確保、また、町中での診療所の開院につきまして、やはり厳しい医師確保の状況の中ではございますが、今後もそれらの意見を踏まえながら、医師確保に向けた努力を強めていきたいというふうに思っております。

また、病院の診療に対する不信に対しては、具体的なご意見のものにつきましては、直接、該当病院のほうへお問い合わせさせていただく中で事実関係を確認し、対応が必要であれば、そういったものを求めてまいります。

また、病院での接遇、その他につきましては、具体的なものにつきましては、それぞれ個々にお話をさせていただきますが、今回いただきましたものは具体的な例示ではなく、聞きづてというような部分の中でお聞きした部分の関係から、病院のほうには時期を見てお話させていただいておりますが、その都度、個別な事実確認ができない関係から、その場で、その程度でとどめているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

以前も申し上げましたが、人口5万人未満の町でできる医療と、できない医療があることを市民によく理解してもらって、不満をためないようにする。それでようやく今の医療が、守られていくというふうに私は考えています。

そこで、医療を行うのは医療機関、行政は医師、看護師、それから現場の頑張りを市民にアピールする。そういったことが、大切ではないかなというふうに考えております。単に市内の医療機関をホームページで周知するだけでなく、医師、看護師、現場の頑張りを市民に伝え、理解を求める。そのことを医療機関に委ねるだけでなく、関係機関と情報を共有して市民理解を進める。そのマネジメントをしていくという、それが行政の役割でないかなというふうに考えております。そして、そのマネジャーを務めるのは、市の保健師ではないかというふうに思うわけですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

議員ご指摘のとおり、当市で全ての医療が完結できるというような状況でございませんので、高度な医療、専門性のあるものにつきましては、やはり市外での医療という部分もあるというふうに考えております。それらを考え合わせる中で他地域との比較等を含めまして、当市の医療の現状、そういったものについて市民の皆様方にご理解をいただくことは、大変大切なことだというふうに思っております。これにつきましては、フォーラム形式にするのかどうかは別といたしまして、年度内の中で、ちょっと検討してまいりたいというふうに思っております。

また、後段のほうでお話のございました保健師が医療機関、または市民とのつなぎ役という部分につきましては、これまでも必要に応じ市民からのお問い合わせ、そういったものを医療機関につなぐ。また、医療機関からの話につきまして、市民の方にお話するということにつきましては、必要に応じて取り組まさせていただいてるところでございます。

また、医療現場の頑張り等につきましても、私ども市民のほうへ健康づくり教室とか、それぞれ出前講座等の機会がございますので、そういった部分の話の中に織り込みながら、伝えてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

さらなる取り組みというものをお願いいたします。

ここで最近、私が知った市民と医療のお話をご披露したいと思うんですけども、公益社団法人日本看護協会が5月12日の看護の日を記念して公募した、忘れられない看護エピソードという作文コンテストがあります。そのコンテストで糸魚川市内の小学生、入江夏希さんの作品「わすれられない誕生日」が、応募数3,500以上の中から特別賞を受賞したということです。

夏希さんがけがをし、糸魚川総合病院で治療してもらったエピソードには、看護師さんへの感謝の気持ちがあふれています。この冊子がそうでありますけども、この中に文書、それから何と有名漫画家、桜沢エリカさんの漫画として読みやすくなっております。こういうものですね。文書と、こちらのほうに漫画があるんですね。これはどなたでも見ることができると思うんですけども、このことをご存じだったかどうか、そこを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

5月11日ごろだったと思うんですが、その新聞報道の中でそういった記事が出たということで承知しておりますし、やはり今、議員さんがおっしゃいましたように、医療現場での頑張り等が市

民に周知される、いい情報だなというふうに感じたところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

地域に医療があり、看護師さんに親切にしてもらったことに素直に感謝する子供の気持ち、ここに私、見習うべきものがあるなと改めて気づかされたわけですが、このことをより多くの市民にも知ってもらいたいと思います。病院のためにもなり、また市民のためにもなると思います。このことを広める何かアクションをしていただけないかということなんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えいたします。

この場で、直ちにこういった形にするというようなお答えはできませんが、どういう形の検討ができるのか、検討させていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

さて、子供から気づかされるということでもう１つ、小さな市民が地域医療の存続を心配し、充実を願っている例をご紹介したいと思います。

市内の中学校で、生徒が考える糸魚川の活性化策やまちづくりについての研究発表、この中で中学生から医療への提言があると聞いて私も会場へ伺いました。このことは以前にも触れたと思います。この取り組みについて担当課、それから教育委員会は知っていましたか。また、どのように対応しましたか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

議員のお話は、平成２５年の７月ごろ青海中学校で行われたことであれば承知をしておりますし、そのときには企画財政課の職員と青海事務所の職員２人が参加する中で、お聞きをしております。また、その辺の掲示物等につきましては、ちょっとお借りをし、庁内の中で掲示をさせていただいた経緯がございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

+

○ 13 番（田原 実君）

昨年の分はどうだったでしょうかね。それから教育委員会としてはそういったことを、これから子ども一貫教育等々の中でも、あるいは日本一の子どもをつくるということの中でどのように取り上げていくか、そこら辺、お考えがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

昨年度、10月に青海中学校で行われたというふうに聞いております。市内の中学校では総合学習の発表の場として、いろいろな活動を各中学校で行っております。まちづくりについて、また、自分自身の進路について学習の成果を発表しているというふうに承知をしております。

青海中学校でも昨年度、医療・福祉、生活、まちづくり等々についてのポスターを使っでの発表が行われたというふうに、校長から報告を受けております。今まで実際に見に行くことがございましてしたので、今年度はぜひ見に行かせていただきたいというふうに思っています。子供たち一人一人が市の現状を理解して、課題をつかんで、それぞれ自分自身が何をすべきかということを考えることは、ふるさとの愛着や誇りを持ち、そして未来を切り開く力を育てていく上で、大変重要なものというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○ 13 番（田原 実君）

時間の関係上、その内容につきましては、学校にまた確認してほしいと思いますけども、私からはそのポスターセッションのポスターの表題のみ幾つかご紹介いたします。

糸魚川の医療問題について、一人でも多くの命を助けよう、看護師不足の解消による医療の充実について、糸魚川市と医療機関、市内の救急医療、高齢者の健康はまちの健康、そして住みよいまちは医療からというふうに、多くの生徒が糸魚川の地域医療に危機感を持ち、対策を考えてくれました。そこには子供たちの医療や、まちの未来への思いがあふれています。この思いをそこでとどめ置くのではなくて、この延長上に医師、看護師が誕生してほしいと私は願わざるを得ません。そこで将来、医師、看護師を目指す子供たちのために、市はどのような支援をしているか、改めて現状を伺いたいと思います。

あわせて医療系、看護系の学校への進学、例えば受験のフローをつくったり、アドバイスをしていくことへの行政、教育委員会からのサポートみたいなものを、お考えであるかどうか伺いたいと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

市教育委員会では市内の中学校 1 年生に、大学訪問事業を実施をしております。キャリア教育の一環として行っております。上越教育大学と上越の看護大学を中学 1 年生が訪問をしております。そこでは大学生から、大学に入るまでのこと、そして大学に入ってから自分たちはどういうふうにして学習をしているのか、看護大ではこんな勉強をするんだということを中学生に語ってくれています。子供たちはそれを聞いて、自分たち自身のプラン設計ということを考えてまいります。各校では自分自身のプランを描いて、将来設計ですとか進路計画を立てる指導を各校で行っておりましてあります。県でもキャリア教育というものを推進することを、重点の 1 つとして捉えておりますので、各校でキャリア教育を推進をしているところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔 13 番 田原 実君登壇〕

○13 番（田原 実君）

医療の道に進もうとする子供たちのモチベーションを上げる、そのための 1 つ提言をしたいと思いますが、市内の中学生と医療機関の専門家が医療をテーマに語り合うようなフォーラムの開催はいかがでしょうか。地域の人々が医療従事者になって、また地域に帰ってきて医療を担ってもらうことが大切であります。それには中学生から、さらに医療とまちづくりについて考えを深めていただけるよう医師、看護師からのアドバイスも聞ける。それにまた中学生が質問するというような、「住みよいまちは医療から」をテーマとした市民医療フォーラム、中学生が参加して医療機関の専門家と意見交換ができるようなフォーラム、そういったものを開催していただきたいと思います。+
いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

中学生に医療に対して興味を持っていただくということは、大変大切なことだというように思っておりますが、私どもの立場とすれば教育委員会との協議や、また、学校現場での意向の確認が必要だというふうに考えるとございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔 13 番 田原 実君登壇〕

○13 番（田原 実君）

手続、あるいは組織のことですから、いろいろとあると思うんですけども、問題はそういうテーマを持ってフォーラム、あるいは医療機関の専門家と中学生が意見交換をする場が大事なんじゃないかなということなんですけど、そういったものを進めていただけるかどうか、方向性だけでも教えていただきたい。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

医療関係に特化したものだけというわけにはいかないかもしれませんが、キャリア教育の一環として、こういうことも取り上げていくということは重要なことかなという思いがいたします。ぜひ計画の中に組み入れられるかどうか、各学校と検討してみたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

では、子供の命を守る取り組みについても伺います。

子供の命を守る医療としては子ども医療費入院助成、通院助成、ひとり親家庭等医療費助成、各種予防接種助成などありますが、その後の子供の医療対応の拡大について、お話を聞かせいただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

その後の拡大ということで、昨年6月議会で同じご質問をいただいておりますので、その後の拡大という意味で申し上げますと、子供の医療費に対する助成でございますが、昨年の6月から中学生の2子以下の通院の部分についても対象といたしまして、中学生全員に拡大をし、それから昨年9月には、高校生の同じく2子以下の通院の部分を対象とすることにより、現在、高校生以下全ての子供を医療費助成の対象にしたというところでございます。

その他、ご指摘のありましたひとり親の家庭に対する高校生以下の子供及びその親を対象に、助成については前年度以前からの継続で取り組んでございますし、インフルエンザの予防接種の助成につきましても13歳未満の子供を対象に半額助成ということで、これも継続して助成の取り組みをしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

頑張っていたいてますね、ありがとうございます。

では次に、子供の夜間の救急対応について、毎回、毎回、伺っております。毎回、同じ答弁でありますけども、糸魚川市からの情報の出し方、それから糸魚川市による身近に相談できる子供救急の対応について、ホームページ等での周知について、この1年間で検討され、充実してきたことは何か伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

同じく昨年の6月議会で議員のほうからご提言をいただいた、おおむね2点であったと思うんですけれども、市のホームページの中でトップページでわかりやすく、子供の命を守るというバナーを設置するなどして、そこに全てを集約してほしいというのが1点。もう1つは、子供の命を守るガイドブックの作成という、2つのご提言であったかと思っております。

ホームページにつきましてはトップページの性格上、1つのものを大きく取り上げますと、ほかのものが非常に目立たなくなるという、そういう特性もございます。現在のトップページには、医療情報という、トップページの中段に大きなバナーみたいなものがあるんですが、そこをクリックしていただきますと、子育て、あるいは子供の病気、親子の健康、子育て支援というふうなことで、そういった子供の命を守る部分のページにリンクするような形をとっておりますし、また、右側のほうには人生の出来事別の中にも、子育て、病気というトップページには部分がございます。さらに細かくなりますが、下のほうにいきますと、健康・福祉という分野の中からもそこへたどり着くという、トップページの中でも幾つかの場所から、そこが開けるようなことになっておりますので、そこについて改善というところには至っておりませんが、言葉の面でわかりにくいというところがあれば、また直していきたいというふうに思っております。

それからガイドブックにつきましては、現在、ご提言のあったようなものについては、子育てお役立ちブックというものを既に作成しておりまして、出生児の届け出時に配布をしております。また、ホームページからもダウンロードできるようにしてございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

丁寧なご説明をいただきましてありがとうございました。

ホームページのそのデザインについて、ちょっと意見を申し上げますと、ただ言葉だけじゃわからないですね。文書のところをクリックするんじゃなくて、やはりバナーに子供さん、あるいは若いお母さんのイラストがあしらってあるとか、それから医療機関の写真ですよ、そういったものとか、もう少しデザインの工夫をしていただきたい。要望しておきます。

では次に、小学校などでの感染予防対策について伺います。

季節を問わず感染が起きるようになってきましたが、その情報収集と情報伝達について、行政、担当課の対応はどのようになっていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

感染症が発生した場合には、市の教育委員会に学校から報告がございます。それをもとに保健所と教育事務所のほうに連絡をいたします。こども教育課では、その情報を市内の学校に伝達をしております。また、幼稚園、保育園につきましては、こども課から連絡をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

それで、その相談窓口となるところが、少しでも専門的な対応がなされるような人員配置となっているのか。また、５５２－１５１１、市役所だけだと、あるいは保健所だけだと、土日、夜間は連絡できないよねということにもなっていくんですけども、そこら辺は、どういうふうにお考えになってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

子供の健康、あるいは急病に対する相談窓口というところでございますが、人員配置の面で申し上げますと、当こども課の中で保健師は正職員で４名、臨時職員１名、計５名の配置でございまして、各種健診会場での相談、あるいは市役所へ来庁された相談に対する相談に応じておるところでございます。

それから休日、夜間については、どうしても電話では警備員が出るわけでございますが、やはりかかりつけ医や病院に対する受診というものを勧めるようにしておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

先ほどもちょっと保健師さんの働きということに触れましたけど、市の保健師さんというのは、今みたいな相談業務にどうかかわっているんでしょうか。県と連携をとって、誰かがその相談を受けられる。その役割を市の保健師さんも果たすというふうな対応を私は望むんですけども、そこら辺、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

一連の健診の中で、保護者の皆さんの不安だとか悩みに対する相談については、積極的に伺ってるところでございますが、医療が必要かどうかという点については、やはり受診をお勧めするということにとどまっているというところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

今後の課題と受けとめたいと思います。

では、保健センターの改修工事と活用について。

市民の健康、それから予防医療のための施設である保健センターの活用計画については、議会、委員会でよく示されないまま建物が完成し、そして供用開始に至ってるというふうに私は受けとめております。であるとすれば、とても残念なことであります。その辺の事情を、担当課よりお聞かせいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

糸魚川保健センターの改修工事につきましては、３月９日に竣工いたしております、３月１７日の検査というような形でございました。３月は３月議会の日程等がありましたことから、委員会での見学は行いませんでした。今、議員ご指摘のように、委員会を軽視したというようなつもりはございません。そういった誤解を招いたのであれば、おわびをさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

建物は立派にできましたね。私が先日、保健センターを訪れたときは、ちょうど健康教室が終了して、利用者の皆さんが会場から出てきたところに遭遇しましたけども、感想を伺えば、一様に喜んで参加している、楽しかったとの評価をいただいております。ただ、この施設、利用されていない時間も多いと伺っております。施設の利用率を高めて、有効活用をしていただきたいと思います。

今後、運営をサポートするスタッフをふやすことや、多くの人に気軽に利用していただけるような管理方法というものを考えていかなければならないと思いますけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

糸魚川保健センターにつきましては、本年度から青海地域、糸魚川地域の乳幼児健診の場という形で使わせていただいておりますし、また、市長答弁でも先ほど申し上げましたように地区運動教室、ころばん塾等として新たに活用開始をさせていただいております。これらの利用計画につきましては、昨年の８月２０日だと思いますが、市民厚生常任委員会の中でも若干、計画案という形

でお示ししておりまして、それらの最新の形で6月の市民厚生常任委員会の中で、お話をさせていただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

また常任委員会で伺います。

この保健センター、近くには糸魚川市こころの総合ケアセンターもありまして、ここと連携して精神のケアと身体のケアという2つの機能を果たす医療の拠点となることが私は期待を申し上げてるわけですが、こういった施設の連携、活用ということ、これからの課題だと思いますけども、何かお考えがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本健康増進課長。〔健康増進課長 山本将世君登壇〕

○健康増進課長（山本将世君）

お答えをいたします。

連携につきましては、既にバタバタまつりなどを通じまして、こころの総合ケアセンター、また、好望こまくさとともに、共催事業というふうな形で実施をさせていただいております。今後もそういった形の中で、連携を強化してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

では、質問の2に移ります。

では、人気テレビ番組「プラタモリ」などの撮影誘致、放映による糸魚川からの情報発信の取り組みについて再質問でありますけども、北陸新幹線開業に対応した沿線各都市の番組撮影誘致合戦、大変なものであったのではないかなと思います。糸魚川の露出と反響について、いま一度、担当課に伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

この1月から5月までのテレビ放映でございますけども、全国放送だけに限りまして東京をキー局としたNHK、日本テレビ、TBS、フジテレビ、テレビ朝日、テレビ東京といったそれぞれの番組、ニュース番組であったり、それから旅番組といったところで取り上げられております。こういった取り上げられ方が、主要施設等での入り込み客数の増につながったものというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

私もいろいろと見ていました。それで施設の入り込み客数増につながったということは、大変よかったと思います。しかしながら糸魚川駅は、日本海に一番近い新幹線駅との紹介があったにもかかわらず、そのことについての糸魚川の魅力を伝えるに至らなかったのではないかと感想も持っております。糸魚川の紹介において、情報を出す側からの創意工夫が必要だったのではないかと思います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

私も幾つかの番組を見ましたが、その中でご指摘の日本海に一番近い駅という形の報道番組は、それなりにあったのかなというように考えております。その一方で、糸魚川の持つ多様な観光資源ということで、カニであったり、奴奈川姫であったり、ヒスイであったり、けんか祭りであったり、ブラック焼きそばといった、まさに糸魚川の多様な観光資源が、いろいろな角度から、いろいろな番組で取り上げられたというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

何となくワンパターンだったような気がするんですね。どの番組を見ても同じような絵づらだったんじゃないでしょうか。

さて、人気テレビ番組の「ブラタモリ」でありますけども、個人的な主観も入っております。しかしながら、私、この「ブラタモリ」を見るにつけ、糸魚川こそ撮影地として取り上げてほしいといつも感じています。この「ブラタモリ」の金沢が撮影地のときにタモリさんが、金沢の地名のもととなった砂金のとれる河原に向かって歩きながら、「うん、ヒスイでもとれるのか」と口にしたような記憶があるんです。これについては、今、NHKに問い合わせ確認をしているところです。このときに私、糸魚川なら河原でヒスイがとれるのになというふうに思った。それから、どの撮影地でも断層、地形、地質の見学ができる場所をタモリさんは大変喜ばれて、また見事なうんちくを語られている。そういったことから、たとえ一般的な知名度は、ほかのところに比べて低くても、糸魚川がタモリさんから強く興味を持っていただける場所として、これから糸魚川が有名になるチャンスが、この番組にはあるように私は感じております。

そうは言っても、糸魚川が「ブラタモリ」の撮影地に選ばれることは、世界ジオパークに認定されるよりもハードルが高いことでしょう。ただ、それだけに市民こぞって、この撮影誘致に取り組んでみることは、決して無駄にはならないと考えます。そこで、これまで放送局や番組制作会社な

+

どへの働きかけをしてきたかどうか伺います。いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

私もやはり「ブラタモリ」の場合には、名所旧跡を歴史的背景、あるいは地形的背景を織りまぜながら番組がつくられていると思います。ジオパークでいいますと、やはりその物語性が重要だと思っております。そうした中でヒスイなり、奴奈川姫といったものを機会を見ながら各テレビ局、放送局等にお伝えしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

私がちょうど20歳のころタモリさんがテレビに出るようになって、おもしろい人が出てきたなというふうに思っていたら、あっという間に人気が出まして、今日の地位を築かれました。以来、30年以上、第一線で活躍されて、国民に与える影響は大きい。しかも断層や地質、歴史、鉄道などへの造詣が深いとなれば、タモリさんから糸魚川を番組で取り上げていただく働きかけをする過程で、糸魚川というのはどんなまちなのか、魅力あるのか、ないのか、おもしろいのか、おもしろくないのか、番組となるだけのコンテンツを持っているまちなのか、そうでないのか。ジオパークがいいのか何がいいのかクールに外部評価をしていただける、そんな機会になるのではないかと。そしてこれがこれからのまちづくりの指針となるのではないかと思います、今回の質問をしています。

そこでいま一度、各担当課に伺いますが、もし人気テレビ番組「ブラタモリ」に紹介するとすれば、ずばりどこ、何だと思うか。課長さんご自身が「ブラタモリ」に出演し、タモリさんを市内案内をするつもりでお答えいただきたいと思います。まず、糸魚川のまち歩きを観光客や市民が楽しむ仕掛け、そういったものに対してご紹介をいただきたいと思います。担当課さん、お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

まち歩きといった点では、糸魚川の駅北には奴奈川姫の像があったり、相馬御風宅があったり、そしてレトロな町並み、新潟県最古の酒蔵があったりといったものがあります。こういったものにつつまして、いわゆる歴史的な背景、そして街道としての町並み、そういったものをお伝えしていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○ 13 番（田原 実君）

相馬御風と糸魚川文化についていかがでしょうか。できればタモリさんの興味を引くように、个性的でおもしろい紹介というものをしていただきたいんですけども、担当課さん、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

おもしろい紹介というのは、なかなか難しいと思いますけれども、まずはやはり早稲田大学の先輩、あるいは後輩としての御風、早稲田大学の校歌ですとか童謡「春よ来い」をはじめとする作詞者としての御風、多様な文化人と交流があった御風、お酒をこよなく愛したと言われる御風、そしてふるさと糸魚川の歴史や風俗習慣を探究し、全国に知らしめたほか良寛研究の第一人者として活躍し、奴奈川姫伝説にいち早く注目し、また、バタバタ茶の風習を紹介したほかヒスイ発見の端緒をつくったなど、御風と現代につながる糸魚川の文化とのかかわりや、その影響につきましては、枚挙にいとまがないというふうに紹介をしたいと考えます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13 番 田原 実君登壇〕

○ 13 番（田原 実君）

観光課長にもう 1 回伺います。糸魚川駅周辺、中心市街地というのは歴史的な町並みになってますね。私は非常に好きです。いろいろとまだ皆さんご存じないようなこともあると思うんですけども、ここもできればタモリさんの興味を引くような、个性的でおもしろい紹介というものはないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

糸魚川は東西文化のまさに境界ということですが、糸魚川駅の日本海口をおりた前、駅前通りは現在も地下に暗渠という形で城之川が通っております。その東西、東側の寺町のほうへ行きますと消雪パイプから出る水が茶色くなっている。一方で、城之川の西のほうに行きますとそんなに茶色でないといった、ちょっとなぜだといったようなことを絡めながら話してみるのも、1 つの方法かなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13 番 田原 実君登壇〕

○ 13 番（田原 実君）

+

ありがとうございます。

では次に、筒石地区集落の特徴ある漁村、これを見て、学んで楽しむ仕掛け、これもタモリさんが学んだり、楽しんだりすることを想像してお答えいただきたいんですけども、筒石駅はおもしろい、それから坂道が多いですね、坂道の景色がとてもいい。そして3階建て、4階建ての木造家屋、その家屋の前と後ろではタモリさんの好きな高低差があると。タモリさんに興味を持ってもらえそうな場所として、私はナンバーワンなのではないかなと思うんですけども、ここについてはいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

磯野文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 磯野 茂君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（磯野 茂君）

お答えいたします。

議員のおっしゃるとおり前は海と国道、後ろは、そそり立つ崖の間のわずかな平地に家が密集する筒石地区は、自然との過酷な戦いと順応の姿がうかがえる漁村であるというふうに思います。興味や関心を呼びそうな場所ではありますけれども、市長、冒頭答弁いたしたとおり、プライベートな空間と路地が近接していると、そんな住環境でありますことから、そのようなことへの配慮が特に必要かなというふうに考えております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔13番 田原 実君登壇〕

○13番（田原 実君）

それでは続けてなんですが、糸魚川ジオパークの特徴的な地形、地質やヒスイをはじめとする豊富な鉱物、鉱石などを学び楽しむ仕掛け、これはもうリニューアルしたフォッサマグナミュージアムがあるじゃないかと、今さら何を言うかという感じかもしれませんが、そのテレビ番組に紹介するために情報を絞り込んで、やはり引きつけるということも必要ではないかと思うんですね。ここら辺、どのように考えていかれるか、お考えがあれば伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

今、議員ご指摘の高低差という話でいきますと、小滝川ヒスイ峡から流れてきた石が海岸へおりてくる、それも1つの高低差だと思いますし、高い、低いでいきますと縄文遺跡の高い、低いというものもあると思います。いずれにしてもキーワードは世界最古のヒスイ文化の発祥地、そこにヒスイ、そして奴奈川姫がいたと。こういった切り口でいくのが、1つの方法かなというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

皆さん、知恵を絞っていただいてありがとうございました。何やらもう「ブラタモリ」の撮影誘致ができそうな気がしてまいりました。

さて、この「ブラタモリ」の撮影誘致、素人の私が考えるくらいですから、ひょっとしてほかの自治体、ジオパーク認定地は既に動いているかもしれません。もしこれを佐渡にでも持っていければ非常にくやしいですね。市長、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

私も「ブラタモリ」は好きで、なかなかタイミングが合わなくて全ては見えてはございませんが、非常に人の目のつかないところに目をつけてもらったり、また、非常に楽しく地形を語ってくれる、非常に私といたしましても関心のある番組であるわけであります。前は東京だけでやっていたんですが、地方へ出るようになってきたわけでございますので、やはり期待もするわけであります。

ただ、我々ジオパークの仲間のところに回っていただければ非常にありがたいな。ジオパークの露出が高くなれば、それほど我々も近くないうちにきてくれるかなと思っているんですが、しかし、バラエティーの中においては、やはり糸魚川が一番かなと思っていますので、一番最初に来ていただきたいというのが私の願いでもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原議員。〔１３番 田原 実君登壇〕

○１３番（田原 実君）

ぜひ一度、タモリさんに糸魚川にお出かけいただいて魅力を知っていただく、そのように進めてください。

終わります。

○議長（倉又 稔君）

以上で、田原議員の質問が終わりました。

次の質問に入る前に、答弁者にいま一度お願いします。答弁は簡潔に、要領よくまとめていただくよう願います。

次に、田中 立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。〔７番 田中 立一君登壇〕

○７番（田中 立一君）

市民ネット２１、田中 立一でございます。

発言通告書に基づいて一般質問を行います。よろしくお願いいたします。

1、北陸新幹線系魚川駅・えちごトキめき鉄道開業と観光誘客について。

待望の北陸新幹線長野 - 金沢間が開通し、同時に北陸新幹線系魚川駅並びに並行在来線えちごトキめき鉄道が開業して3か月が経過します。

これらの開業に向けてこれまで進められてきた様々な整備や取り組みに、どのような成果や課題があり、今後どのように生かしていくのか、考えを伺います。

(1) 北陸新幹線系魚川駅開業について。

北陸新幹線系魚川駅の利用状況は当初1日当たり600人と報道されましたが、市では利用状況をどのように捉えていますか。また、今後の利用促進についての考えを伺います。

開業による各観光施設及び商店街等への波及効果について、どのように捉えているか伺います。

北陸新幹線開業後、大糸線の利用状況についてはいかがでしょうか。

レンタカー、レンタサイクル、バス、タクシー等二次交通の取組状況について伺います。

騒音等苦情やトラブルについて伺います。

(2) えちごトキめき鉄道開業後の次の課題と対応について、どのように捉えているか考えを伺います。

北陸新幹線、あいの風とやま鉄道等他線との接続について。

ディーゼル車両1・2両によるワンマン運転について。

切符の購入（有人駅と無人駅、JR切符）について。

新潟への直通列車が快速1便のみによる利便性の低下について。

イベント列車の申込状況について。

リゾート列車の運行予定について。

新駅設置の調査状況について。

国の支援、30年間に830億円の内容について。

今後の利用促進策について。

(3) 観光誘客について伺います。

広域観光の取組状況について。

外国人観光客の現状と誘致について。

以上、1回目の質問です。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

田中議員のご質問にお答えいたします。

1点目の1つ目につきましては、JR西日本では公表いたしておりませんが、新幹線開業後の乗降客は増加していると受けとめており、今後も引き続き、観光誘客に努めてまいります。

2つ目につきましては、4月、5月の主要観光施設の入り込み客数が対前年比22.2%の増加をいたしておりまして、さらにジオパルでは1日平均1,300人が訪れております。一定の開業効果があったものと考えております。

3つ目につきましては、ＪＲ西日本からの公表数値がなく、利用状況は把握しておりませんが、大系線の利用も増加していると思っております。

4つ目につきましては、新幹線の開業に合わせて新たな取り組みといたしまして、レンタサイクルやフォッサマグナミュージアムまでの路線バスの充実を図り、2次交通の確保に努めております。

このほか既存のレンタカーやタクシーについては、いずれも順調な利用状況であるとお聞きしております。

5つ目につきましては、環境基準を超える地区を対象に鉄道・運輸機構と地元説明に入っております。また、電波障害の発生もあり、同様に対応いたしております。

2点目の1つ目につきましては、待ち時間を要する接続もありますが、他線との接続は、おおむね良好と捉えております。

2つ目につきましては、ワンマン運転が基本となっておりますが、朝のラッシュ時や2両編成では車掌が乗車し、混雑時の安全確保を図っております。

3つ目につきましては、全国のＪＲ切符が購入できなくなっておるわけでございます。このことから今後は利便性の向上を図るため、えちごトキめき鉄道に要望を行ってまいります。

4つ目につきましては、来年のダイヤ改正に向けて要望活動を行ってまいります。

5つ目につきましては、申し込み状況は順調であるとお聞きいたしております。

6つ目につきましては、来年の春から運行予定であるとお聞きいたしております。

7つ目につきましては、3月までの調査結果を踏まえて、今後、えちごトキめき鉄道や県と協議を進めてまいります。

8つ目につきましては、貨物調整金や安全輸送設備補助等が主な内容となっております。

9つ目につきましては、利用促進事業やマイレール意識を醸成する取り組みを実施いたしております。

3点目の1つ目につきましては、北アルプス日本海広域観光連携会議を軸に進めておりまして、広域連携を行うことで、より魅力ある観光地としてＰＲに努めてまいります。

2つ目につきましては、糸魚川市観光協会において、インバウンド推進委員会を組織いたしまして、外国人誘客に努めております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今回、開業して3カ月ということで、この内容を取り上げましたけれども、北陸新幹線、えちごトキめき鉄道、観光誘客はそれぞれ関連がありますので、各項目にとりあえず分けましたけれども、質問の内容によって順序が変わったり、混在するかもしれませんが、よろしくお願いいたします。

まず、1点目の糸魚川駅の利用状況、増加しているというただいまの市長答弁でございましたけれども、当初の総定数は2,700人というふうに伺っております。

今回の発表の中には、600人という中には団体等が含まれていないと、自動改札のみという報

+

道の中にありましたけれども、それにしても差があり過ぎるんじゃないかなと。その辺の認識についてはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

確かに2,700人という数字については、今現在では多分クリアはしていないんだろうなというふうには考えておりますが、それでも開業時よりはやはり見ていると、600人よりもやっぱりふえているのかなというふうには思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

あまり数字にこだわるわけじゃないんですけれども、上越妙高 - 糸魚川間の1日平均の利用者数が、当初予想よりもふえて2万6,000人がという報道があります。各駅の利用状況、そのときでの報道の内容によりますと、上越妙高駅が2,300人、飯山駅が800人、黒部宇奈月温泉駅が700人という数字が出されていると。そういったことから増加してるとは言っても、これが報道されたことによって一番低いなという印象が非常に強いわけなんですけれども、そういった意味においての捉え方はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

確かに数字というものも大事だというふうには思っておりますが、やはり数字だけでなく、いかにそれが地域経済の活性化に寄与できるか、実感できるかというところの取り組みをしていくほうが、やはり大事なのではないかなというふうに捉えています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

言われるように、それが大事だなと思います。そのことについては、その次に伺いますけれども、けさの新潟日報の紙面において、上越のほうでは上越妙高駅の乗降調査を独自にやっている報道がありました。私、先ほど数字2,300人と言いましたけれども、実際にはゴールデンウィーク後の独自調査では3,800人だったかな、というふうな数字がありまして、予想を上回っているということであります。数字2,700人に対して600人と、もう少し反省すべきことがあっていいんじゃないかなと。先ほどの田原議員との質問の中にも、今までかつてないほど全国放映された

り、この地域の関心が高まっている中で、少しこの時期に合わせて利用客を想定して、それを確保するための努力、取り組みというものが、どうあったのかという反省はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

新幹線系魚川駅の利用については、田中議員がおっしゃられるようにＪＲから公表された数字は、開業直後の１日６００人ということでございますが、関係者何人かからお聞きして分析、総合的に判断するところによると、その後は、もう少しふえているのではないかというふうに私どもは受けとめております。正式な公表数字というのは、カウントしてみないとわかりませんので、ＪＲから発表されるのが正式な数字でございますけれども、ジオパルの利用状況、あるいは付近を、ヒスイ王国館を利用されている方の数、それらを勘案すると、駅周辺で人のにぎわいが出てきているというふうに思っております。そういう中で、駅の乗降客についても、さらに利用者をふやしていくような取り組みをそれぞれ会社、行政、市民の皆さんと進めていかなければならないと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

ちょっと温度差が違うなど。上越のほうを別にいいなと言うわけでもないんですけれども、やはり危機感というものがあれば、これだけの数字を示されて公表されて、そしたら実際、でも増加してるというんだったら、その辺のところを独自にやっぱり調査する、あるいはもうちょっと具体的なデータを調べる。そういった努力があって、次の対策が打てるんじゃないかなと思うわけですが、違いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

きょう新聞報道によれば、上越妙高駅のほうでは上越市が独自で調査を行ったというような報道でございました。当市においても独自で調査をするというようなことは、自由通路の利用者の数等を開業前に調査をしております、それらとの比較をする上で、今後、自由通路の利用者、あるいは駅を利用される方、あわせて調査をすることも考えてまいりたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

こういった利用客の数字とか利用数、そういったことは今後の「はくたか」の停車、あるいは、さらにいろんな今後、在来線のほうの優等列車も含めて、いろんなものに関係してくるんじゃないかなと思いますので、ぜひその辺の取り組みというものをお願いしたいと思います。

促進策の１つとなるのかもしれませんが、開業後、通勤に新幹線を使っている、あるいは使いたいという話を私も時々聞きますけれども、先ほど田原議員のやりとりの中で、医師の確保に新幹線の利用をとりましたけれども、通勤に対する市の考え、助成等を含めて何かありますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

やはり糸魚川からすると富山、それから長野、金沢ぐらいまでは大変近くなっておりますので、確かに通勤客を取り込むと、そちらに行ってる会社の方を通勤で新幹線に取り込むということも、大変大事だというふうに思っております。

そこで市としての補助といいますか、そういうものはどうなのかということでございますが、それについても今後やはり分析する中で、考えていかなければいけないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

１つの助成の仕方として駐車場と言われるんですけども、今、最大４日間無料、新幹線利用の場合はありますわね。非常にこれは喜ばれているし、評価がされていいことだなと思っております。ただ通勤客が、もしこれもう１日、定期等でやる場合には、あれば、月曜日から金曜日まで車を置かせてもらえるんだから、そうするともっと利用しやすくなると。いろんな助成の仕方があるかと思うんですけども、そういったことはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

やはり今ほど言われたように、いろんなケースがあると思います。その辺のところも整理する中で、今後、検討していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

今、駐車場なんですけれども、この４日間無料の利用状況、あるいは北アルプス日本海広域観光

連携会議の市町村枠も設けられていますけれども、その辺の周知の仕方、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ヒスイ王国館駐車場、アルプス口駐車場で、新幹線を利用した方の駐車場台数ですが、4月、5月で約2,900台弱というところでございます。

北アルプス日本海広域観光連携会議の関係者の皆さんの関係でございますけれども、大町、小谷地域、それぞれ広報等での紹介というものをお願いしておりますし、小谷村さんは職員については、長野駅でなくて糸魚川駅を使うようにといった話をされてるというように伺っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

もう1つ利用促進の中で気になるのが、今、切符の購入なんですけれども、ネットでの購入を勧めている中で、割引率の高いお勧めの切符がいろいろある中で、糸魚川駅が利用されないものもあるわけなんですけれども、その辺の把握と、それに対する対策はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

50代以上の割引切符ということでJR糸魚川駅の中では、おとなびという中で、期間限定でございますけれども、東京往復フリー切符で1万7,000円という企画もございます。こういった企画をPRなりする中で、乗降客がふえていけばいいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

関西方面の切符を買うときにWEB早特という切符があるんですけれども、糸魚川からは使えないと、富山からの設定になってるというの也有ります。そういったことでいろいろやっていると、あったら便利で利用促進になるのになというのがありますので、その辺をまた調べて、検討のほうをよろしく願います。

それから各観光施設、商店街への波及効果、効果が大変あった答弁でございますけれども、私、いろんなところで聞いて、観光施設、あるいはその類のところは、かなりお客さんがふえて売り上げもあるという反面、商店街等で伺ったりすると、あんまり実感を感じないと。タクシー等を利用

+

した方から、タクシー等の運転手とのやりとりの中でも効果をあんまり感じない、実感がないという話も漏れ聞いてくるんですけれども、その辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

最後のご質問のタクシーということでございますけれども、タクシー会社にお問い合わせした中では、4月、5月の状況でありますけれども、駅から観タクンが約3倍の利用、それから貸し切り利用がふえていて、4月、5月では全体としては伸びているというように伺っております。なかなか状況を聞くと、ぼちぼちとか、6割、7割とかといったような、抑えぎみのご発言をされている部分がある中ですが、4月、5月については、一定の開業効果があったのではないかとこのように認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

わかりました。

それからジオパルが非常にふえてる話を先ほどから伺いますけれども、ジオパルはじめいろんなところにWi-Fiの公衆無線LANやそういった整備、あるいは、ぐるり系魚川のアプリの更新等をされておりますけれども、その辺の効果等の検証はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

ジオパル内では、駅北のまちめぐりといった形でマップの提供をしておりますが、これももう数千枚といった形で出ております。ぐるり系魚川につきましてもまちめぐりという形で、3つのコースを設定しております。現在、アクセス数が1,500少しということで、昨年に比べてふえているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

それからもう1点、ここで聞いていいのかどうかちょっとわからないですけれども聞きます。

自由通路の売店、キヨスクですね、この営業時間というものを、もう少し延ばせないだろうかという話を聞くんですけれども、これはいかながなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

駅の売店の利用時間については、たしか午後８時までというような認識であります。もう少し、３０分ぐらい長くやっていただければありがたいという声は、私も二、三の市民の方からお聞きした状況があります。ＪＲのほうに話をした経緯もございますが、まだ具体的に、じゃあどうするのということまではいっておりませんが、今後、そのような意見を踏まえて、また関係のところにお話をしてみたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

大系線の利用状況はふえているというのを実感されているお話で、糸魚川駅の利用促進には大系線の利便性向上が１つの鍵だなと思います。できれば、またその辺のデータ等も捉える中で、対策等も検討してもらいたいと思います。

２次交通でありますけれども、新幹線客はどのような２次交通に対してのニーズ、求めているか、その辺の分析というのはされていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

先日、ジオパルの中でシンガポールの方が観光案内をということで来られましたが、どんなルートかとお聞きしましたら長野から新幹線に乗って糸魚川へ来たと。この後、大系線に乗って白馬のほうへ行くといったお話を聞いております。外国人にとっては、やはり公共交通というのが非常に大きいんだろうと思います。

ビジネスの関係でありますけれども、駅レンタカーを利用された方が糸魚川駅でレンタカーを借りて、上越へ行って乗り捨てをするといった事例があったりということでもあります。

今後、こういった動きを把握しながら、次の策を練っていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

レンタサイクルが好評ということで、先日も新聞記事にありました。その中で気になったのは新聞記者のレポートで、マップが、土地に明るくないと迷う箇所があると。不安になったところもあったようなんですけれども、その辺の対策、あるいは捉え方はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

+

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

新聞紙上では、2点指摘があったと思っております。1つは、レンタサイクルを借りる場所がわかりにくいと。これにつきましては、ジオパル内の表示等を加えております。今後もよりわかりやすい周知に努めたいと思っております。

2点目の乗って見たけどわかりにくいといったことございますけども、これについては電子データ、PDFをよりわかりやすい形に改良しまして、現在、公開しております。また、必要に応じてジオパルの中でお渡しするといった体制も進めていきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

自転車に関しては最近も交通法が改正されたように、安全面という配慮が必要なわけですが、料金には万一のときの保険料だとか、あるいは保証料とか、そういったものは含まれているのでしょうか。また、安全に対する説明等、そういったものは、どういうふうにされているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

保険につきましては、自転車の関係の保険がございますので、それに加入してるという状況であります。ですので、利用料金の中に含まれているということであります。

また、取り扱い等につきましては、案内所の職員なり自転車屋さんが説明をする中で、ご利用いただいているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

それから、この夏に糸魚川の駅から能生のマリンドリームへのバス運行を計画されているというお話を以前に聞いたことがあります。この内容は、どのようなものなのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現在、最終的な調整を行っておりますが、夏休み期間中、今のところ7月20日から8月20日

ぐらいまでをめに、糸魚川駅の発着でマリンドリーム能生、また、親不知ピアパークを往復するといった形のバスの運行を考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

もうちょっと詳しくあれだったんですけど、例えばこれは路線バスなのか、それから発着はどのように考えているのか、そういったことはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

基本的には、貸し切りバスといった形の運行になる予定になっております。

そして発着につきましては、ともかく糸魚川駅を起点に、糸魚川駅を出てマリンドリーム能生へ行って、マリンドリームで1時間ほどの時間を要した中で、また糸魚川駅に戻ってくる。糸魚川駅からまた親不知ピアパークへ行って、戻ってくるといったような運行を現在考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

糸魚川駅は北口、南口あるんですけれども、満遍なく行かれるということでしょうかね、どうなんでしょう。

それから、もうこればかりあれなので、後でまたお答え願いたいと思いますけれども、騒音等の苦情やトラブルについて伺いたいと思います。

今まで電波障害等も発生しているということで、いろいろと対応されているんですけれども、騒音、振動の苦情があります。それに当たってまず市の窓口が、組織機構が4月から変わったということで、市民の間では、こういったことの問い合わせの窓口がなくなってしまったというふうに誤解されている方、あるいは周知されていない方が多いんですけれども、そういったことはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

窓口については、定住促進課が窓口になっておるということでございますが、その辺のところの広報だとか、一応、そういうものはいたしておりますので、確かにわかりにくい、それからわからないということがあったというふうには思っております。失礼しました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

利用促進、推進、いろんなところで、これまで都市整備課のほうで担う中で、こういった光の部分と逆なところでの対応というものも担ってきたものが、いざ開業してから、その窓口が市民でわからないというのは、少し残念だったなと思うんですけども、今回、能生地域における騒音、振動問題について、若干伺いたいと思いますけれども、能生地域における騒音、振動、こちらではどのように捉えているか、まず、それから伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

能生地域につきましては1次測定を終わって、鶉石、それから柱道、それから下小見、その辺のところの2次測定の住民説明会を実施しております。今後、対象者と測定位置等の調整が済み次第、第2次測定のほうを実施したいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今おっしゃった地域がほとんどなんですけれども、特に柱道の地域が非常に騒音や振動で苦しんでいて、早急な対応を求めている声が聞かれるわけなんですけれども、5月19日に柱道の集会所といえましょうか、センターで説明会が行われて、市の職員も出られたというふうに聞いておりますけれども、その辺の様子といえましょうか、どのような意見が出されて、どう鉄道・運輸機構のほうでは対応されたか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

柱道の区ということで、20人ほど会議には出席されております。やはりその中で騒音、振動等がひどいということで、会議中も新幹線が通ったらかなりの振動と騒音があったということでございます。それにつきましては、トンネルに空気を逃がすための穴があいとるんですけども、それを例えば閉めればなくなるというようなことも考えられるんですけども、それだと時間もかかるし、今、実際に営業しとるので、基本的に早急に解決するのはやはり個々の住宅の騒音なり、そういうものの防止の工事をやるのが一番早いということで話をお聞きしています。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

住民から私、何人かからいろいろ聞いている中では、鉄道・運輸機構のほうではその穴を塞ぐというふうに理解しとる方が多かったです。そのときの鉄道・運輸機構の説明や補償のあり方に対して、かなり不満といいたいでしょうか、批判といいたいでしょうか、意見が出されたというふうに聞いております。納得しないというのが、一言でいえばそうなんでしょうか、その辺の捉え方は、同席されていかがだったんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○ 定住促進課長（渡辺 勇君）

これにつきまして鉄道・運輸機構のほうで対応しておりますけれども、やはりその辺の住民とのコンセンサスといえますか、その辺のところも重要になってくるんだろうというふうに考えております。一方的なことではなくて、やはりその辺のところは十分、お互い納得いくような形で事の進め方が必要なんだというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

これは補償の話になってくると、今も言われたように住民との話し合いでもあるわけですがけれども、非常に住民は日々の生活に苦しんで、もうできるものなら引っ越ししたいと。今、新幹線は朝の 6 時ぐらいから夜の 11 時近くまで走って、それはまた利便性の関係から言えばいいことなんかもかもしれませんけれども、生活の面において非常に苦しんでいると。こちらの住民の人たちは新幹線を通すに当たって、いろんな面で協力してきたという思いもあります。その辺、また市のほうも多少なりとのかかわりもあったかと思うわけなんですけれども、家によっては 11 時前は寝られないとか、あるいは子供を 2 階には上げられないとか、あるいは、これから暑くなってくるのに当たって窓を開けられない、いろんなお困り事があります。とにかく早急な補償、あるいは対応を求めるんだけれども、これまでの対応についてはかなり鉄道・運輸機構に対して、十分な内容だったかという疑問があるように見受けられます。

できるものなら市の方にも、その辺をしっかりと把握してもらいたい、そのように思うわけなんですし、また、住民からも、そのように言われておりますけれども、市のほうでは説明会には出られておりますけれども、実際の音や振動、その辺はどのように調べているか、どうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○ 定住促進課長（渡辺 勇君）

実際、市のほうで独自で振動等を調べているかと言うと、振動は調べてはおりません。騒音のほうは環境生活で調べようと思えば調べられると思いますけれども、やはりその辺は鉄道・運輸機構の

ほうとの絡みもありますので、やはり正式なもので調べた中でお互いに納得する形で解決していくのが、一番なのではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

昨年6月5日に、新幹線・交通網対策特別委員会で説明の原稿の資料による報告では、さきの鉄道・運輸機構の騒音、振動への対応に対し、それぞれ補償への対応の際、住民の皆様から納得していただけるよう、市といたしましても協力していきたいと考えております。協力の意味ですわね。それはどのようにじゃあ住民は捉えたらいいのかなと。今のお話ですと、最後は鉄道・運輸機構と住民との話し合いですけれども、いかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えします。

やはりそこは市も中に入っとるわけでございますから、十分住民の方の意見等を反映させるために入っとるというふうに思っておりますので、そこはしっかりと鉄道・運輸機構等にも伝えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

これはかなり前から試験走行が始まっていて、住民の間からは内々、あるいは外にもいろんな話で出ていたわけでありまして。でも、これは去年の6月から、これはどこの地区かわかりませんが、そういうふうな報告がされているわけなんですけれども、やはりそれまでの間にじゃあ市としては、どのような対策や対応というものをされてきたんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

市としましては対応というのは、やはり住民の方と基本的には説明会等に参加をして、十分鉄道・運輸機構のほうに意見等が伝わるような形、それから実際一緒になって考えていくというような形で、取り組んでまいったというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

ぜひ住民の気持ち、あるいは、できればその辺の騒音、振動もしっかりと把握してもらうように、声をじかに聞いていただけたらと思いますし、これはトンネル内の微気圧波というものが影響しているということらしいんですけれども、列車が早く出口側に空気を押し出して、圧力がかかった空気が出口で急激に膨張するためにドーンという騒音を発生させるという、そういうメカニズムらしいです。私が今さら言うまでもないのかもしれませんが、この騒音や振動というのは高速になればなるほど高まるということで、やはり「はくたか」よりも「かがやき」のほうが、非常に通過帯には大きな音、振動があるようです。

学者等のネットで調べたところでは、非常にこういったものには低い周波数の成分が含まれているということで、建物やそういったものに対する影響、さらには健康を害する影響も起こるそうだというふうに書いてありました。できるだけ早い対応等をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

今の騒音の問題につきましては、住民の皆さんの十分なる意向を踏まえて、鉄道・運輸機構のほうと話し合いをしていくという部分について、市のほうで間に入りながらしっかり対応していきたいというふうに思います。

○議長（倉又 稔君）

田中議員の質問の途中ではありますが、昼食時限のため暫時休憩いたします。

再開を午後 1 時といたします。

午後 0 時 0 2 分 休憩

午後 1 時 0 0 分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

田中議員の一般質問を続けます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

騒音、振動問題でありますけれども、今、能生地域のほうの話をさせてもらいましたけれども、市内全域においてはどのような状況なんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

糸魚川、青海地域については梶屋敷地内、これは金山トンネル付近ですけれども、そこで騒音があります。それと上刈地区で、新幹線直接ではないんですけども、移転補償に伴って在来線の音が大きくなったというようなこともございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

今、騒音、振動問題を中心にしましたけれども、電波障害や日照権、いろんな問題、これまで特別委員会でも約束したことが結構あります。しっかりと取り組んでいただくことをお願いして、次に入りたいと思います。

えちごトキめき鉄道のまずは接続ですけれども、市長の答弁では、良好だというふうな答弁でしたけれども、新幹線においては二、三十分待ちがざらといいましょうか、結構ありますし、中には50分以上のものもあるように見受けます。この辺はいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

やはり新幹線との接続については、おっしゃるとおり50分待ちだとか、1時間以上待つというの也有ります。新幹線で例えば東京へ行くとき、能生方面からはいいんですけども、青海方面から来るときには50分待ちだとか、また逆に、青海方面はいいんですけども、能生方面からは、ちょうど50分待ちになるとかというような形で、結構待つ時間があります。

これにつきましては、やはりえちごトキめき鉄道等のダイヤ改正に合わせて、少しでも利便性、乗り継ぎがよくなるように要望もしてますし、えちごトキめき鉄道でもそのような形で対応をとりたいというふうにっております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

ということは、やはり良好ではないんじゃないかなと思うわけですね。やはり新幹線は速達性が重要なものですね。接続が悪いと、やはりその意味が半減するというふうに理解するわけです。

今、このことについては、上越妙高のほうでも大きく取り上げられているところですけども、

今、えちごトキめき鉄道のほうにも申し入れをしているということではありますが、その辺の状況と反応はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

えちごトキめき鉄道のほうも、その辺のところは十分承知をいたしてるところでございます、次回のダイヤ改正に向けては利便性が上がるように、ダイヤ改正のほうを検討したいというふうに申しております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

よろしくお願いします。

次に、2番目のディーゼル車両の1・2両によるワンマン運転、ちょっと基本的な話でありますけども、朝夕の通勤通学の時間帯は2両と、通勤通学の朝の時間帯って7時台に2本、能生のほうからあるんですけども、現状を聞いていると7時台の2本は、1本は2両だけでも、1本は1両ですよね。ちょっとその辺は把握されてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

議員おっしゃるとおりでございます。1本は2両ですけど、1本は1両でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

やはり大変なラッシュですわ。これも特別委員会で指摘されて、今まで3両だったものが1両あるいは2両、そのラッシュ時の1両のお話を聞くと、先ほどの答弁で車掌が乗って安全に努めるといよりも、車掌の仕事はどちらかと言うと詰める仕事なんでないかというふうに皆さんも受け取ってます。その辺は把握されてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

一応、実際に列車に乗ってみたりしております。確かに定員ぎりぎりの数で運行してることは間

違いございません。これにつきましては、やはり1両増結なり、または例えば今の快速をもう少し早い時間にするとかといったものを要望して、そのようになれば多少なりとも、そういう通勤通学の混雑は解消できるのかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

私に言わせれば通学時間帯、通勤時間帯は、全部まず基本的に2両だというふうに思ってたわけですね。これが1本が2両で1本が1両ということ自体がおかしいんじゃないかなと思うんですけれども、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

思うところは同じだというふうに思っておりますので、やはり増結なりに向けて、要望はしていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

なるべく早くその辺の対応もしっかりとやってもらいたいなと。やはり経済事情はわかりますけれども安全面とか、あるいはこれだけのものになってくると犯罪とか、そういったものまでも心配になってきます。これから暑くなってくると冷房の効かない状態になったりとか、学生はいろいろと荷物もたくさん持ってる関係もありますし、また、少しでも勉強したい時間というところもあります。ぜひその辺の気持ちも酌んで要望をしたり、あるいは対応をお願いをしたりしてもらいたいと思います。

もう1つ、これがディーゼル車両ということで、安全面についていろいろとこれまで議論してまいりました。これに対して第三セクターのほうでは、日本海ひすいラインには2キロ以上の長大トンネルがたくさんあるということで、その長大トンネルではトラブルが発生し、列車が5分以上停車した場合には、運行管理所へ自動的に警報を表示するシステムを設置するとか、そういったことをはじめ運行管理所から当該トンネルの照明を点灯させることができるように改修するとか、この長大トンネルに対しての安全面というものを講ずるというふうに約束されておったんですけれども、その安全面は全部確保されて、今、運転されてるというふうに理解してよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えします。

今言われた自動警報表示システムや安全口の案内標識等の設置については、行われているというふうでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

私、時間の関係で2つしか言わなかったんですけども、まだほかに500メートル以上のトンネルの避難誘導だとか、いろいろあったわけですけども、その辺の約束は全部クリアしてやるかということを確認したかったんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

開業前に約束した安全運行につきましては、全てやってるということで一応理解をしております。特に開業してから日本海ひすいラインのほうにつきましては、トラブルは発生してないということで聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

トラブルが発生したら大変なんですけども、いろいろとトンネル内の斜坑等に対しての改修が、じゃあ全部できてるということで理解させてもらいます。今後も安全面には配慮を、さらにもお願いしたいと思います。

切符の購入について、これは市長答弁のとおりかと思います。ＪＲの切符の購入が不便になったので申し入れてるということで、よろしくお願ひしたいと思います。

切符なんですけれども、今、若い人を中心に、当たり前のようにになっているＩＣカードの導入なんですけれども、あいの風とやま鉄道のほうではＪＲ西日本のＩＣＯＣＡというんでしょうかね、ＩＣカードを使えるようにやっておりますけれども、やはりこれからはＩＣカード導入というものは、利便性のためにも必要じゃないかと思うんですけども、その辺の検討状況はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

+

今、えちごトキめき鉄道に要望しているのは、やはり前と同じようにＪＲの窓口で買えるような簡易端末の設置というのを要請しておりまして、ＩＣカードまでは今のところまだ要請というか、その辺のところはまだ行っておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

新聞報道の中にはＩＣカードの利用というものも検討していきたいというふうには見受けたと思ってはいるんですけども、じゃあまだその辺の、こちらからは要望を出してないけど、会社内でも検討はしていないということによろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

会社内での検討というのは、ちょっとまだ承知しておりませんので、申しわけありません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

こういうものは、この時代にといたらあれですけども、もう都会では当たり前のようにＩＣカードは使っているし、もう利便性をこれからやっぱり高めていくとなると、投資額等はどれだけかわかりませんけれども、検討されているというふうにとどこかで見たもんですから、その辺の状況を知りたいと思って、今、聞いているわけなんですけども、いかがなんですか。会社のことからだめでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

私らのほうは今、ＪＲのときのように券売機を整備をして、切符を販売してくれということで要請をしております。ただ、ＩＣカードにつきましては、えちごトキめき鉄道の部内では研究してるというふうに思っておりますけれども、まだそこまで私らは要望してないというのが実態であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○７番（田中立一君）

じゃあそれにつきよろしくをお願いします。

4番目の新潟への直通列車、これは前から優等列車についていろいろ希望を出しております。先ほどの答弁のとおりで、この辺は一致してと思います。引き続き、大事な課題と思いますので、要望のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

イベント列車の申し込み状況でありますけれども、一応、この申し込み、問い合わせは会社のほうなんですけれども、これは市として問い合わせ等の対応というのはされるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

市としての取り扱いということですが、例えばそういう申し込み等があれば、私ども直接いいとか悪いとかと言えませんので、経由でやはりえちごトキめき鉄道のほうにその旨をお伝えして、そういった窓口的なものについては、できるものというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

リゾート列車ですけれども、JR東が今現在「越乃Shu*Kura」ですか、やってます。結構、快調というふうに聞いてますけれども、これはコンセプトが「酒」、キャッチフレーズは「水と大地の贈り物」、そのようにうたっておりますけれども、今、えちごトキめき鉄道のほうでの考えているリゾート列車、来年の春に運行予定ということで、もう大分時間が迫ってきておりますけれども、どのようなコンセプト、あるいはキャッチフレーズでこれから進めていくのか、市民や利用者に対して、その辺のPR等はどのようにやっていくのか、いかがなんでしょうか、把握されてたらお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

リゾート列車につきましては、えちごトキめき鉄道のほうで、今、その愛称なりデザインなりということでやっております。ただ、愛称も5月に3つほどに絞るということになっておりましたが、その3つほどのものとデザインとのコンセプトの点で、ちょっとまだ決まっていないというような状況でございます。基本的には、リゾート列車については確かに需要もあると思いますので、これについてはいろいろなコンセプトの中で、皆さんが乗りたいというようなもので走らせるのがいいなというふうに思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

今言われるように、非常にリゾート列車に対する関心は高いように見受けます。また、いろいろと話も聞かれるんですけれども、全然情報が見えてこない、流れてこないなど。一体いつデザインが決まって、どのように決めて、その概要はどうなるんだろう。それから、そういったもののスケジュールや運行計画というのは、いつごろ発表されるんだろうという話が、全然わからないわけなんですけれども、その辺の把握はいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

その辺につきましては、私どもも例えば名称については5月以降だとか、そういうような報道もありますから、その辺のとの問い合わせをしておりますし、来年の春という運行を行うということでございますので、その辺から考えても、やはり早いうちにその辺のところを全部決めとかなないと、間に合わないんじゃないかというような危惧はいたしておりますので、引き続き、その辺の情報については、収集してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

もともと、これは開業と同時に走るんじゃないかという期待もあったものなんですよね。それが来年の春ということで、やはり関心も高いだけに、いろんな情報というものを把握次第、また発表してもらいたいし、またそれに努めていただきたいなと思います。

よくこのリゾート列車、大糸線も乗り入れたいという話を聞くわけですけども、JRとの話し合いというのは進んでいるかどうか、把握されてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

リゾート列車につきましては、今、えちごトキめき鉄道のほうは、JRから引き継いだ線路の安全運行ということで、今、そちらのほうを一生懸命やっております。したがって、いろんな点でおくれ、おくれになっとなというのが実態であります。

したがって、リゾート列車につきましても来年春から運行予定だよということでありますけれども、それ以外については、まだ白紙の状況ということであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

何度も言うようですが、やっぱり関心が高いですし、どんどんおくれていくのというのはいかなんもかなという気がしますので、その辺、またしっかりと対応していただきたいと思います。

時間の関係もありますので、新駅設置の調査状況ですが、先ほど市長答弁では今調査は、来年の3月ぐらいまでされるというふうな受け取り方でよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

調査については、ことしの3月で終わっておりますので、それに基づきまして今後、えちごトキめき鉄道、それから県なりと協議を進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

その調査の結果というものは、これジェイアール西日本コンサルタンツに調査を求めているというふうに聞いているんですけども、その結果に基づいた地元説明等、そういったことはされているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

結果につきましては、この後、議会のほうに報告をいたしまして、その後に地元のほうにも、その旨、報告をしたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

じゃあ今後の予定として議会、それから地元への説明、その段階の間なのか、それをやってから設計に入っていったというふうになっていくのか。もしも設計から供用までやるというふうに決めた場合、どれぐらいの時間、スケジュールというものを考えているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答え申し上げます。

新駅につきましては、この3月いっぱい調査をさせていただきました。それにつきましては常任委員会に、今回、報告をしたいと思っております。それ以降、今、えちごトキめき鉄道と県に、こ

+

ういう調査結果につきまして報告をして、要請をしたいと思っております。ただ、じゃあいつごろになるかというのは、その県とえちごトキめき鉄道との協議の中でのになりますので、まだそこまでは、スケジュール的なものは、まだわかっていないというのが実態であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

じゃあ今後の協議、あるいは結果の報告を踏まえて、また伺っていきたいと思います。

次に、じゃあ国の支援の30年間で830億円の内容でありますけれども、はっきりわかっていた前からの数字というものは、貨物の調整金が、当初、250億円というふうに言われていたかと思うんですけれども、これは毎年のように、平均した金額で入ってくるというふうに理解してよろしいんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

これについては30年で、例えば貨物調整金なりそれらについては、740億円ということございまして、毎年度、同じ額かというのと、例えば鉄道事業認可の申請書を見ますと同じ額ではなくて、年度年度で、ばらつきがあるというような数字になっておりますので、これについては毎年、決算を見る中で、確認はできるんじゃないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○7番（田中立一君）

この830億円の中のうちで、初期投資として40億円があるわけですが、主に当初聞いていたのでは除雪車とか、あるいは指令所とか、そういったもののよう聞いていましたけれども、もう少し中身がわかればお願いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

お答えいたします。

40億円というのは県の支援ということで、今ほど議員が言われたような内容であります、細かい数字については公表というのはされておりませんので、大枠で40億円ということしか今のところ聞いておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

わかりました。

利用促進策なんですけれども、以前、サイクルトレインの話がよく出ましたけれども、サイクルトレインの実施の見通しというものはいかがなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺定住促進課長。〔定住促進課長 渡辺 勇君登壇〕

○定住促進課長（渡辺 勇君）

利用促進という意味では、いろいろなものを考えていかなければいけないと思っております。特にえちごトキめき鉄道については、今のところは通学、それから通勤、主に地元の方が利用されてるものでございますが、今後はやはり大系線ともタイアップした中で、その辺のところの周遊をできるような観光客等も取り込む中で、やはり利用促進というものにつなげていかなければならないというように思っておりますので、いろいろなものを検討していく必要があるというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。

○ 7 番（田中立一君）

いろいろとありがとうございました。またよろしく願いいたします。

きょうはありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、田中議員の質問が終わりました。

次に、吉川慶一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。〔1 番 吉川慶一君登壇〕

○ 1 番（吉川慶一君）

創生クラブの吉川慶一です。よろしく願いいたします。

通告書により 1 回目の質問を行います。

1、ふるさと系魚川応援寄附金（ふるさと納税）についてお伺いします。

2008 年に始まった「ふるさと納税制度」は、自治体に寄附すると一定の範囲内で所得税が控除され、特典がもらえることになっております。

3 月 14 日の北陸新幹線開業を機に、全国各地から当市への利便性が向上して、一層の交流人口拡大を期待しているところです。また、多くの人に「行ってみたい町」「住んでみたい町」と自然豊かな、魅力あふれる町をアピールするチャンスでもあります。この「ふるさと納税」でさらに支援の協力をお願いすべきでないでしょうか。そこで、お伺いします。

(1) 全国の「ふるさと納税」の取扱いについて、市としてどのように捉えていますか。

(2) 応援寄附金は、どのように利用されましたか。全国では、具体例としてどのようなものがありますか。

(3) 全国の市町村では、多くのアイディアによる返礼品で町の活性化に使われていますが、今後、糸魚川市の「ふるさと納税」の返礼品にどのような考えがありますか。

(4) 「ふるさと納税」を今後、当市としてどのように利用していきますか。

2、農業改革（日本型直接支払制度）について。

(1) 県の農地中間管理機構（農地集積バンク）は、農地貸借目標を増やしました。県内農家も経営の大規模化を目指し、農地の集積、集約に動きを始めています。そこで、お伺いします。

国の農政改革である農地集積バンクの集団化は、当市でも計画どおり進められていますか。

地域によってどのような計画を進められてきましたか。

当市では、国の目標とする数値に達しましたか。

(2) 当市も高齢化が進み、農業耕作者の平均年齢が68歳を超えようとしています。農業は、経験が必要ですが、重労働でもあります。

当地域の形態は、傾斜地で、農道の整備、水利の確保等、難題があり、このため機械の大型化や大規模経営に問題を残しています。今後、どのように農地整備、経営を進めるべきかお伺いします。

担い手の育成の経過と集積をどのようにされ、また、担い手確保の面で市外からの募集は計画されていますか。

市内の農業者は、今後の農業の継続をどのように考えているか把握していますか。

農業を継続できなくなる問題を市としてどう捉えていますか。

(3) 最近、鳥獣被害が市内に多く発生しているとお聞きします。毎年イノシシ、シカ等による田畑の被害が出ていますが、さらに近年、サルが住家付近に出没し、家庭用野菜まで被害が出ています。これらに対する対策をどのように計画しているかお伺いします。

イノシシ、シカ等による農林作物被害の地域別状況について。

サルによる畑作被害について。

被害防止の今後の対応策について。

以上で1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

吉川議員のご質問にお答えいたします。

1番目につきましては、それぞれの自治体が寄附金を集めるために工夫を凝らしていると捉えております。

寄附金については寄附された方のご意向に沿って、ふるさとの地域づくりなど4つの使途で大切に使用させていただいております。

お礼品といたしましては特産品で、寄附金の1割から2割程度とさせていただいております。

2番目の1点目につきましては、各地区において人・農地プランを定め、農地中間管理機構を通じて農地の集積、集約化に取り組んでおります。

また、関係機関と連携をしまして、地域農業懇談会等において事業の周知や話し合いを進めておりますが、現状においては国が目標とする数値には達しておりません。

2点目の1つ目につきましては、人・農地プランにおいて各地区の担い手を明確にし、農地集積協力金事業等によりまして、担い手への集積を促進いたしております。

また、市外からの募集につきましては、昨年度から就農相談会に参加いたしております、引き続き取り組んでまいります。

2つ目につきましては、アンケート調査や地域農業懇談会等を通じまして、意向の把握に努めております。

3つ目につきましては、農業継続にはさまざまな課題があると捉えております。

3点目につきましては、平成26年度の農作被害額は、水稻を中心に約700万円となっており、地域別では、能生地域が最も多くなっております。

電気柵の設置等による農地への侵入防止と、猟友会と連携をいたしました捕獲による個体数の削減を進め、今後も農作物被害の防止を図っていきたくと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

2回目の質問をお願いいたします。

市長から答弁ありましたが、実際、このふるさと納税につきまして、ふるさと納税のアンケートをちょっと調査させていただきますと、ふるさと納税をしたい人、これとしたい人と統計したところ約半々ぐらいの数値でありました。中には特産品をもらえる、税制優遇があると、この2点のところが、反面、面倒くさいと、こういうことがあります。

しかし、これは国の進めている税制でございますので、ぜひこういうのも有効利用していただきたいと私は思っているんですが、まず、高額商品の換金性の高い謝礼をどう思ってますか。この統計では、このままでよい、行き過ぎなところもあると。それから、ふるさと納税をふやすために必要な方策はどうだと、こういう統計をしております。これについて当市は、どんなお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

ふるさと納税制度の目的というのは、平成20年度から始まっていて、都市部と地方自治体の税制格差を埋めようということで、その中には3つの大きな意義ということで、納税者が寄附先を選

+

択できること。それから生まれ故郷とか、お世話になった地域、応援したい地域にも力になれること。それから、こういう制度が始まることによって、いわゆる各自治体が地域づくりをアピールできることということで、やはり本来、そういう目的に沿った形が望ましいんでないかなと。やはり全国の自治体を見ると、返礼品の額が寄附額の5割を超えるようなものもありますので、ふるさと納税の制度の趣旨から見て疑問を感じることもあります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

今、担当課長から答弁がありましたように、全く総務省ではそのような回答をしておりますが、私も全く同感のところがあるんですが、ふるさと納税は汗をかいた自治体に光が当たる制度でないかなと、こう私は思っております。やはり都心の方から寄附していただく、また、地元に着愛を持っていただく、こういうアイデアをひとつ利用していただくということが、大きなものでないかなと私は思います。返礼品については国は自粛を求めて呼びかけましたが、自治体によっては生きるには、やはり地域を意識したものがあります。いろいろ模索をして返礼品を出しております。

ここで本市、先ほど説明がありましたように、1、2割と、こう言うておりますが、そのくらいでいいと思っておりますか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

返礼品の額としては、適切なものと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

私はやはりそれも必要ですが、もう少し知恵を出して、やはり地域を思う方をお願いしてもいいんじゃないかなと、こう思っておりますが、そこで、本市の現状をちょっとお伺いいたします。

本市が始めたのは2008年からですから約7年ぐらいたっておりますが、この7年間で4項目をやっておりますが、これをどのように反映させておりますか、お伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

使い道については寄附をいただく際に選んでいただいております、一番多いのが、ふるさと地域づくりと市長にお任せであります。その中では、ふるさと糸魚川同窓会応援事業や、まちづくりパワ

ーアップ事業、ジオパーク推進事業などの財源として使わせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

ちょっと細かくなりますが、統計ですので若干、年度が変わると思いますが、最近、これについて各県下も市町村も、相当気を使っておることはご承知だと思いますが、私がちょっと当市を見ますと、1,000万円ぐらい当市が寄附金をいただいておりますということですが、参考までに近隣のところ、上越市が見直ししまして約2,000万円、新潟県でも妙高市さんは数値を出してありませんが、新発田市で昨年度1,000万円以上。皆さんご承知だと思うんですが、全国は桁がちょっと違っておりまして、長崎県の平戸市が約14億円もいただいとるということですが、この数値について伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

確かに、そういう億を超えるような自治体がそれなりにあるということも知っております。ただ、やはりこの返礼品があるから寄附をするという、そういういわゆる返礼品合戦みたいになるというのは、地方税制そのものにも影響が出てくるんじゃないかというふうに思っております。

先ほど議員のほうからも言われたとおり、国からも華美な返礼品については、法の趣旨から自粛するよう通知が出ております。特に寄附金控除で税額が減る自治体も出ております。特に首都圏のほうでは、億単位で住民税の税額が減っていると。ただ減るだけならいいんですけども、実は仕組み的には、地方交付税で75%が補てんされると。結果として、実質的な交付税が減るような形になります。

また、返礼品合戦が加熱すると、いわゆる当市の住民税もやはり寄附金控除が年々ふえてきている状態となっておりますので、やはりふるさと納税自体というのは一般の税とは違って、安定的な財源とは言えないと思ってますので、やはり持続可能なまちづくり、そういう観点からも寄附していただいた方の志にしっかり応えられるようなまちづくり、そういったことを進めるのが本来の趣旨でないかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

全く華美になれば、非常にこれはもう限度を超えていくことは、いささかわからないこともないんですが、やはりそれはそうとして、足並みをそろえるじゃなくて、同等にいくとなれば、ある程度、アイデアを利用した中で、やはり糸魚川市財政力寄附じゃないですが、財政的にもご寄附を願うということが必要性ある。また全国の方から来ていただいて、地元のものを利用していただくと、

これも必要性じゃないかなと、こう思っております。そのためにもふるさと納税を大いに利用していただいて、糸魚川の町を大きくPRをしていただきたいと、こう思うんですが、再度、伺います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

ことしからお礼品の種類をふやしたり、それからふるさと納税専門サイトのふるさとチョイスへ登録したり、それからクレジット決済システム、いわゆるクレジットで支払いできるようにということで、そういう形で見直しをした結果、ことしについては昨年までの件数より大幅に増加しております。5月10日現在で、既に230件、約580万円の申し込みとなりまして、昨年と比較すると本当に、昨年のこの時期ですと、まだ14件ぐらいしかなかったものが、件数だけで言うと、もう昨年の件数を超えてるということで、お礼品の予算も足りなくなりそうなので、今回、6月補正でも追加補正をお願いしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

そうすると、今、課長が説明したように、反応が出ておるということですね。それに合わせるわけじゃないんですが、やっぱり皆さんも相当わかっていただいたということですので、ぜひその返礼品、並びにこの寄附金について、いま一度部内協議していただいて、何が本当にいいものか、過剰にならなくてもやれる方法があるかと思います。

いろいろ全国のを見ますと、宿泊券を利用しているところもあります。催し物のチケットを出すところもあります。こういうものを利用して、どんどん地域の地場産の地域産業や、企業アピールをしていただくということが大きな目的だと、こう思っております。ぜひそれを見直しをしていただきたいと、こう思います。

それと1例でございますが、ある人がふるさと納税を寄附したけど、何か1つ物足りないところもあると、こういうことをお聞きしております。それはなぜかという、やはり地域を愛するんだと、やはりそれなりきのものももらってもいいかなと、こんなことも聞きました。じゃあ何ですかとお聞きしたら、一時的じゃなくて四季に合ったもので結構だということも言っておりますので、糸魚川に数多く四季の名産、名物、こういうものがあります。そういうものを利用していただいて、ぜひ糸魚川をアピールをお願いしたいなと。それと寄附をいただいた方に、感謝の気持ちを十分あらわしていただきたいと思います。

先ほど課長が言うように、過剰にならないようにと言うんですが、私はある程度、お返ししてもいいんじゃないかなと、こう思うと一員であります。ぜひ多くの方からご寄附をいただき、市民の方で、また出身者の方にリピートをお願いするということをお願いします。ぜひそのときには、市長からもメッセージを出していただいて、参考にいただければと思うんですが、いま1点お聞きいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

お礼品の額については変える考えはありませんけれども、やはり地域の特産品のPRも兼ねて、寄附していただいた方に喜んでいただけるようなお礼品の見直し、そういったものはしたいと考えております。

具体的には、固定のお礼品のほか今ほど議員がおっしゃったとおり、季節ごとに旬な特産品に変えとか、そういった工夫はしたいと思っております。

また、寄附していただいた方には市長名でお礼状を送付しておりますし、メール等で申し込みのあった方には、メールですぐに返信するようにということで、職員のほうには指導しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

今後ともよろしくお願いします。

続きまして、2番の農業改革、農業についてご質問したいと思います。

非常に農政がころころ変わって、非常に農家の方は大変なところにあるわけですが、農業は大きく変わってきて、今、農地中間管理機構で、相当ご努力いただいとることはわかります。それで農政改革の農地集積バンクの集団化の現況、いま一度お願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

農政改革は昨年度から改革をされておまして、大きく4つの改革がポイントになっております。

1点目は、農地中間管理機構の設置、2点目は、経営所得安定対策の見直し、これはいわゆる戸別所得補償制度、10アール当たり1万5,000円を7,500円にして、その半額を別の方向で農業支援していくというものでございます。

3点目は、水田フル活用と米政策の見直し、4点目については、日本型直接支払制度の創設であります。日本型直接支払制度につきましては環境保全型、それから中山間地域等直接支払、それから多面的機能支払と、この3本柱になっておるわけであります。

今、議員お話しのように、農政が非常に変わるということでございまして、高齢化している農家の皆さんには、その制度を理解し、ついていくというのは非常に難しい状況だと思っております。昨年度の農政の改革から私も地域懇談会、それから中山間地域の直接支払の4期対策等も含めまして、都合68会場で約2,200人の農家の皆さんに説明を繰り返してまいりました。今年度におきましても、この6月15日から、また地域農業の懇談会に入るわけでございます。できるだけ1人でも多く、その説明会においでいただきたいというふうなことで、私もお願いをしてきてい

るところでございます。

それで農地中間管理事業につきましては、新聞報道等で目標まで達していないというふうなことでございますけども、糸魚川につきましても受け手の登録の数、受け手の皆さんが求める農地の面積が、全て出てきてないというところでございます。農地中間管理事業につきましては出し手、それからその真ん中に農地中間管理機構が入りまして、受け手へ渡すというふうな流れになるわけでございます、中間管理機構側も、できるだけ受け手のある農地を機構のほうで受けるというふうな流れが具体的にありますので、そのような方向で今進めておるところでございます。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

相手のあることですから、そうはうまくいかないのは十分わかっております。私も前回もお聞きしたんですが、なかなか高齢化してきましたんで、今やれるけど、あした、あさってのことは当然わからないわけですが、こういう耕作放棄地が出てまいります。そうすると、この受け手と出し手の問題が非常に問題化してまいります。ということで、今、農業法人化、そういうのは市内でどれぐらいございますか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

農業生産法人の数につきましては、今ちょっと手持ちの資料を持ち合わせておりません。ただ、新しい農政改革におきまして、水田フル活用、米政策の補助制度を受けるに当たりましては、認定農業者になる条件がついて回ってきております。昨年度の実績でいきますと、約30名の方が認定農業者に新規に登録されて、今現在160ぐらいになっております。

農業生産法人の数は、ちょっと今、手持ち資料を持ち合わせておりませんけども、市内の中では農政改革による補助制度をフル活用するようという動きが出てきているのは、事実じゃないかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

ぜひ農地の保全に努力をいただきたいし、また、お願いしたいと思うんですが、具体的に言いますと、集団化するに具体的に何が一番弊害になっておるんでしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

新たな農政改革の中の大きなポイントは、今まで戸別所得補償制度の１０アール当たり１万５，０００円、これが個人に入っていたわけでありますけども、それが半額になりまして、７，５００円の分は多面的機能支払への交付金であったり、他の農政の補助制度のほうに、その財源が回ったわけであります。そうしますと地域において国が支援する制度を、どのように地域がフル活用していくかというところの地域の話し合いが、一番大切な時期に今きているんだと思うっております。農政改革の前に、人・農地プランということで、各地域でプランをつくっていただいて、地域の中心となる経営体に、どれだけの農地を集められるんだというふうな取り組みもしてきたわけであります。

そのような中で、平成２４年に人・農地プランのアンケート調査をさせていただきました。その中で、あなた自身の農業経営を近い将来、どのようにしていきたいですかという設問がありますけども、その中で、自分は今の農業を続けるが、その後はちょっとわからんというのが約半数、回答をいただいております。

そういう中において、今の農政改革における国の制度を地域でもってフル活用していくには、やはり地域での話し合いが、一番しっかりと話し合いをしていくということが、大事だろうと思っておりますし、話し合いしていただくには先ほどの話にもありますように、なかなか農家の皆さんが国の制度がわからんということでありますので、私も昨年度から地域のほうに６８会場も説明に参りまして、約２，２００名の方においでいただいておりますけども、なかなか理解はしていただけないところもありますので、引き続き説明を続けていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○１番（吉川慶一君）

ぜひご努力をいただきたいし進めていただきたいと、こう思います。非常に変わったのに、なかなか理解ができないというのは農家の方だと思います。私も正直、半分もわからないぐらいなんです。

それから昨年ですか、ことしですか、市の広域協定組織が設立されておりますが、この設立されて加盟状況、これはどういう状態でしょうか、お伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今のご質問につきましては、日本型直接支払の中の多面的機能支払だろうというふうに思っております。昨年度、本来であれば各集落、地域ごとに協定を結んで、国の交付金を受ける仕組みがあるわけでありますけども、各地域ごとにその事務処理をしても、なかなか大変だということも見受けられましたので、広域組織を立ち上げさせていただきました。今現在１００集落、１００地域の皆さんが、多面的機能支払の広域協定組織に加入をいただいて、一本化しながら事務処理を進めてきておるところでございます。

取り組みまして１年が過ぎたわけでありますけども、まだまだ事務的にもう少し工夫できるとこ

ろがあるんじゃないかというふうな反省点も持っておりますので、見直しをしたいということと、今年度から中山間地の直接支払の第４期ステージが入ります。今まで大体７００ヘクタールぐらい、第３期におきましては７００ヘクタールぐらいだったわけでありまして、第４期対策からは１００分の１の傾斜地、今までは２０分の１だけでしたけども、１００分の１の傾斜地も対象地域として取り組みたいということで説明に回っておりまして、今までの約倍、１，４００ヘクタールまで伸びるという状況でありまして、多面的機能支払と中山間地の直払とほぼラップして、国の制度が利用できるというふうな状況までなっております。中山間地直払のほうも、できれば多面の広域組織のように一本化で取り組んでいきたいということは、地元提案をさせてもらってるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○１番（吉川慶一君）

私ら地域もそれに該当するように日々努力しておりますが、まだまだそうすると現況でいうと説明の段階で、まだ伸びる余地というか、まだまだこれから進む段階にあるということで、目標としとるのは、どれぐらいを目標としとるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

今のところの中山間地の直払の協定の状況でございますけども、ある程度、固まってまいっております。先ほど申し上げましたように約１，４００ヘクタール、これと多面的機能がほぼ面積でラップしますので、できるだけ耕作放棄地が出ないように、その２つの制度を利用して取り組んでいきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○１番（吉川慶一君）

継続をお願いいたします。

そこで担い手と後継者の育成、これがまた１つのネックと、こう思うんですが、これの現況、この育成をどのようにお考えであるか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

ご質問の回答の前に、先ほどご説明できませんでした農業生産法人の数がわかりましたので、３月末現在で、１１法人になっております。失礼いたしました。

それから担い手の育成、それから新しい担い手となり得る農業者の確保ということのご質問だろ

うと思っておりますけども、昨年度、首都圏のほうで就農相談会を実施しております。10会場だったと思っておりますけども、そこにおいでいただいた方が34人、そのうち今年度からお1人、市内の農業生産法人で実際に就農し研修を受けるという、そのような方がおられます。

また、新規就農者の推移でございますけども、平成21年から平成27年度までの7年間におきまして、約13名の方が農業生産法人に入るなどして、農業の担い手として活躍をいただいております。

毎年1人とか2人とか3人とかという数ではありますけども、そういう若い方が入ることによって地域の農業が、また、高齢化しています農家の皆さんが、少しでも元気が出るというふうに考えておりますし、そういう方が今後、持続的に糸魚川の農業に貢献してくださるんだろうというふうに考えておりますので、引き続き、就農者の確保に努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

当地域は高齢化が進んでおります。本当に農業者は重労働を、体を打ち頑張っていただいておりますので、ぜひ若い青年を積極的に誘致していただいて農業を進めていただきたいと、こう思います。計画を5年、10年のプランでも結構ですんで、ぜひ目標を立てていただきたいと、こう思います。

それから先ほども言いましたように、農耕者が平均年齢もう68歳を超えて70歳になるわけですので、もう山間地のみならず平地でも大変なときにまいてきております。そこでいいプランがたくさん行政では進めていただいとるんですが、やはり労働に問題があるということで、なかなか進んでおらないのが実情でございます。

先ほどもちょっとお聞きしたんですが市外から来る、私、聞き漏らして悪いんですが、1名ですか、市外から応援いただけるのは、もう1回確認いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

昨年度、取り組んできました就農相談会においでいただいた34名のうちの、お1人が市内でもって就農していただいているという状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

1名ね、市外の方はそうすると、まだ見込みがないと理解してもよろしいですね。

これはなぜかと言うと、後継者が減少すれば空き地が出てくる、放棄地が出てくる、そうすると雑草地が多くなってくる。非常に農業がやりにくくなってまいります。こうならないうちにひとつ対策をお願いしたいし、ぜひ問題視していかなくやならんと、こう思っております。糸魚川のおい

しいお米をやはりつくっていくということは、これはもとをつくらなければおいしいお米ができないわけですので、これを十分PRしてひとつお願いします。私はこの米を何としても継続し、備蓄をできれば耕作し、確保していきたいと、こう私は思っております。

今、コシヒカリですか、糸魚川産の米は、主にどちらに出ているのか伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

今、市内で生産されますお米の約半分が農協のほうに出荷されて、半分が農家の皆さんが自分で販売先を見つけていると、おおむねそんな状況になっております。私どもも一昨年から首都圏において商談会等、また、アンテナショップ等いろんな展開をしてきておりまして、東京へ出向きながら行き先をお聞きしてPRしてきておるところでありますけれども、浅草のお米屋さん也非常に喜んでいただいております。ですので主にどこという部分は、数字としては持ち合わせておりませんけれども、首都圏では非常に喜んでおられるということは、現場へ行って確認をしてきておりますし、また、今年度から非常に明るい話なんです、首都圏のある会社の方が田んぼオーナー制度を取り組んでみてくれないかと。社員が田植えに来て、稲刈りをして、その間の子守を地元の農家にしていただけないかというふうな田んぼオーナー制度が今年度から一口、会社数としては2社でありますけれども、取り組むことができました。通常の稲作よりもオーナー制度に取り組むことによって、農家の所得も2倍強ふえるという状況が確認できますので、明るい話として、また糸魚川市内でもこのような取り組みができないか、また、市外の企業にもこのような制度もPRして、1つの売り口として進めていきたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

いい話をお聞きいたしました。ぜひ進めていただいて、元気のある話をしていただきたいなと、こう思います。

それはそれとしまして、お米が多少余るという話もちょうと聞いたんですが、逆にはお米を利用して6次産業できないかどうか。例えばその産業の誘致、企業誘致、こういうお考えはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

米における6次産業は、農家の方が自分自身で販売することも、もう6次産業化になつとるわけでありまして、今、市内で取り組んでいただけてます1つの例としましては、農業生産法人がもち米をつくって、そのもち米をお煎餅に焼くと。ただ、糸魚川で焼くんですけども、もち米から煎餅の素材にするまでは糸魚川市内ではできませんので、他の会社へ出して煎餅のスタイルにして、

焼き上げるのは市内の農業生産法人で焼き上げているわけでありますけども、できればその煎餅にする製造工場も市内で誘致できることであれば、ほかの農家の皆さん、農業生産法人の方も、そのようなことに取り組んでいただける１つのきっかけになるんじゃないかなというふうに考えておりました、今、取り組んでいる農業生産法人とまた話を詰めながら、そのようなものが誘致できれば検討していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○１番（吉川慶一君）

この件もぜひおいしいお米を利用していただいて、産業に結びつけていただきたいなと思っております。ありがとうございます。

それから次、入らせていただきます。

鳥獣被害がここ近年、出ております。先ほど市長からもイノシシ被害が農地に出てるとのことですが、市内のこの鳥獣被害状況、これは近年、数字的にはここ二、三年だと思っております、これをお伺いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

斉藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 斉藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（斉藤 孝君）

農作物の鳥獣被害の状況でございますけども、平成２５年度と平成２６年度の数字がここにございます。市長の答弁では７００万円ぐらいというお話を答弁していただきました。平成２５年度におきましては２６０万円でしたので、非常に平成２６年度はふえております。

対策としましては、特に電気柵の設置を地域で取り組んでもらっておりますし、また、猟友会の皆さんにもご協力をいただいて、捕獲をしていただいております。電気柵を設置したところは被害が少なくなるわけでありますけども、個体数が減るところにつながっているわけでありませんので、今後とも猟友会の皆さんのご協力をいただきながら、捕獲していきたいというふうに考えておりますが、特に昨年は有害鳥獣の捕獲と狩猟と両方あるわけでありますけども、イノシシにつきましては、特に冬場の捕獲のほうに猟友会の皆さんは捕獲しやすいんだというふうなこともございまして、市の単費で猟友会にお願いをいたしましたところ、イノシシでありますけども、平成２５年度は１１４頭でありましたが、平成２６年度は３６３頭とれたということでありまして、昨年、取り組んでみた事業が効果が出てるなと思っておりますので、また今年度も引き続き、猟友会の協力を得て、捕獲をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○１番（吉川慶一君）

年々被害が大きくなって、もう何倍も被害が出ているわけですので、猟友会の方々は大変なことをお察しいたします。でも、このまま放ったきゃ、やはり被害が大きくなるばかりですので、ど

こかで規制をしなきゃならん。どちらが住むほうかわかりませんが、どちらが保護すりゃええかわかりませんが、これはやはり問題があるなと、こう思います。

今、イノシシをしたんですが、猿もまた一緒になって出てまいりました。実は私の後ろにこういう、今、参考に写真があるんですが、これはたまたま私の後ろの写真ですが、もう群をなして来ます。もう人間さん怖くなし、当然、見とる前で食事するというか、食物を取っていくという状態になってます。果たしてこれでいいのかどうか、それをどうすれば対策ができるかどうか、これからちょっとお伺いいたしますが。

まずその前に、先ほど鳥獣被害の実施隊員さん、今、実施できる協力隊員さんというか、そういう隊員さんというのはいらっしゃるんでしょうか、糸魚川に。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

猟友会のほうは糸魚川支部と西頸城支部、それぞれ2つあるんですが、あわせて58名の猟友会員が、現在、加盟しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

猟友会の方ということで、それは撃つほうですか、追うほうかわかりませんが、監視パトロール隊って、こういう人たちはいるんですか、そういう方は。そういう方は、別に定めていないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

パトロールというか、そこまでのものはいないんですけども、猟友会と市の職員等が鳥獣被害対策実施隊員というものを組織して、そういうものが一応、そういうパトロールとか、そういう状況を日常の活動の中で見守っているという状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

そうすると、改めてパトロール隊という人たちはいないわけですね。

これだけ多くの鳥獣が出てまいりますので、ぜひ危害のないようにパトロール隊、地域にどうの方がいいかどうかは、それはわかりませんが、ぜひそれらをお考えいただきたいということと、捕獲する枠というか、柵と言ええんんでしょうか、そういうものも見ていただきたいなと思っております。

それはなぜかと言うと、もう当たり前のように野菜を取られているわけですが、つくれば取られ、スーパーへ買いに行きなさいというようなことになってしまいます。せっかくつくったジャガイモが、実がならないうちにみんな堀り上げて、頭だけで、実がならないうちにみんな畑からなくなってしまうと、これではもうどうすることもできないんですが、それは柵をしなさいとか、いろいろ自衛手段をしなさいとかって、いろいろあろうかと思いますが、そういうときに、柵を例えば買えばいいんでしょうかけど、貸し出しというものはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

齊藤商工農林水産課長。〔商工農林水産課長 齊藤 孝君登壇〕

○商工農林水産課長（齊藤 孝君）

電気柵の貸し出しは、当課にも若干持っておりますので、お試しいただけるようなものは提供できと思いますので、ご相談いただきたいと思いますし、また、地域で皆さんが電気柵を本格的に設置しようということになりますと、ここ二、三年、電気柵に対します要求等、国からいただく補助金につきましては満額になっておりますので、当課のほうにご相談いただきたいと思いますというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

吉川議員。

○1番（吉川慶一君）

過去に私も花火をもらったことがあるんですが、花火じゃとても追いきれませんね。だからその次の策を考えなきゃなんと思っています。今言うように貸し出し用があるよとか、補助があるよということですので、またご検討させていただきたいと思っております。

ぜひこの対策をいま一度、ご検討いただいて、やったら補助を出すのか出さないのかというと、基本的なものをぜひ決めていただいて被害のないように、人畜、要は人間さんにも影響のないように、ひとつお願いしたいなと、こう思っております。

今、猿も出たんですが、私、今回、もう1点、熊も相当出とる。昨日も美山に熊が出たと、こういうことを聞いとりますが、たまたま知り合いが会ったということがありました。これではちょっと、放っとけられないなと。こんなことがあるんで、ひとつ早目の手段をお願いして終わりたいと思います。

ありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、吉川議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

関連質問なしと認めます。

ここで暫時休憩をいたします。

再開を2時35分といたします。

午後 2 時 2 2 分 休憩

午後 2 時 3 5 分 開議

○議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、五十嵐健一郎議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。〔17番 五十嵐健一郎君登壇〕

○17番（五十嵐健一郎君）

清政クラブの五十嵐健一郎です。

通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

1、子ども一貫教育等の成果と課題及び今後の取り組みについて伺います。

(1) 全国学力・体力調査の現状分析・課題及び今後について。

(2) 特別支援学校等との交流及び共生社会実現のための取り組みについて。

(3) 英語教育改革に向けての先取り対応について。

(4) 高校の魅力化及び職業教育の高等機関創設について。

(5) 自発学習の推進と子ども夢基金の調査研究について。

(6) 生涯学習の推進策について。

(7) 2020年東京オリンピックの対応策及び2030年冬季オリンピック新潟開催実現に向けた糸魚川市の取り組みについて。

(8) 体験・修学旅行・合宿誘致と糸魚川留学の促進策について。

(9) つり天井落下防止対策の促進について。

2 子どもが産みやすく育てやすい環境及び女性が働きやすい環境にするための取り組みについて。

(1) 高齢者介護施設誘致の調査・検討について。

(2) 地域経済分析及び活性化プログラムの策定について。

以上で、1回目の質問とさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の子ども一貫教育の成果と課題及び今後の取り組みについてのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

2番目の1点目につきましては、自治体間の連携によりまして特別養護老人ホームを整備しよう

という事例がありますので、事情聴取を行い研究してまいりたいと考えております。

2点目につきましては、現状の人口動態や産業構造などのデータを分析し、今後、策定する総合戦略で人口減少対策として検討することといたしております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もございますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

五十嵐議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目については、全国学力・学習状況調査の結果から、課題は学習に対する意欲と、家庭における学習の習慣化と考えており、今後はさらなる教員の指導力を高めることで、授業内容や指導方法の向上を図っていきたいと考えております。

体力テストの結果については、大きな課題はないと考えております。

2点目につきましては、現在、一部の学校でひすいの里総合学校と交流を行っておりますが、今後、他の学校にも広めてまいります。

3点目につきましては、先取りした対応は計画しておりませんが、今後、英語教育改革について検討を進めてまいります。

4点目につきましては、県立学校の魅力づくりを県に働きかけるとともに、小・中・高校でのキャリア教育の連携を進めなければならないと考えております。

5点目につきましては、児童生徒が自発的に学習する授業づくりができるよう、教職員に指導してまいります。

また、子どもゆめ基金については、現在、調査研究中です。

6点目につきましては、地域の行事に参加する子供の割合は、全国平均よりも高くなっておりませんが、さらに郷土への愛着心を育む人づくりを推進してまいります。

7点目につきましては、ジュニアの育成を重点に市体育協会や競技団体と連携して、大会の開催やジュニア団体の育成支援等を推進し、競技力の向上に努めてまいります。

8点目につきましては、体験教育旅行誘致促進事業や、首都圏の教師を対象にしたモニターツアーなどで、誘致拡大に取り組んでおります。

糸魚川留学につきましては、各ニーズに合わせた受け入れ体制や情報収集に取り組んでまいります。

9点目につきましては、市内の学校でつり天井落下防止対策の対象は9校、11棟であり、今年度、6校、6棟の対策工事を実施し、来年度以降も継続して進めてまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ありがとうございました。

全国学力・学習状況調査、平成26年度、平成27年も終わりましたが、ここ数年、あまり変わってないんですね。小学生はある程度いいんですが、中学生になって数学A、国語Bですか、これは全国的に下回る、この傾向がずっと続いているんですが、その分析、並びにやっぱり取り組み方を変化させないと、上にいかないんじゃないですか。この辺はやっぱりしっかりと教員指導力向上とか、いろいろ言ってますが、やっぱり小学4年生ぐらいから徹底的に、家庭学習を含めてやらせなければならぬ状況にきとるんじゃないですか。変わりませんよ、全国平均より下回ってるんです。その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおり結果となっております。中学生においての大きな課題としては、家庭学習の時間が全国に比べて低いというのが大きな課題となっております。

そしてもう1つの課題は、学習に対する意欲であります。国語が好きというふうな割合が、全国よりも低くなっております。それは国語Bの成績にも、影響してるかなというふうに思っております。ですので、学習意欲の向上と学習習慣の定着ということが、大きな課題となっております。学校訪問においては、この2点について指導してまいりまして、各中学校区でも今、家庭学習強調週間ですとかということで、取り組んでいるところでありますが、より一層、その取り組みを進めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

5番目の自発学習の推進、これは福井県でやってると。福井は学力、体力とも全国ナンバーワンですか。やっぱりここへ教師が行って勉強してもらって、それを皆さん方に研修して、それを取り入れていくような方法というのはできないんですか。やっぱりそのぐらいまで徹底してやらないと。県内的にどうか、ちょっとその辺の数字を教えてもらいたいんですが、全国的には、新潟県では学力はどのぐらいで、糸魚川は順位はどのぐらいなのか、体力では全国では、県内はどれだけなのか。それから糸魚川の順位、その辺の数字はわかりますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

学力について県と比較いたしますと、小学生の場合は、算数のBが全国と同じように県よりも下回っております。それから中学生の場合も、全国の結果とほぼ同じ結果となっております。

また、体力につきましては、小学生は県平均とほぼ同程度か、上回っております。また中学生は

県平均よりも、昨年度の結果を見ますと下回っております。ですが新潟県は体力が非常に、全国でもトップクラスでありますので、全国と比べると新潟県の中学生の体力は、それほど下がってはいないというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

いやいや、その辺の下回るとか上回る、同程度という結果はわかってます。だから全国的に新潟県が何番で、糸魚川市は全国的に見れば何百番目なのか、その辺の具体的な何をわかれば教えていただきたいと思うんですが、体力と学力、両方。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

順位につきましては、学力のほうにつきましても体力のにつきましても把握をしておりません。特に体力につきましては、昨年度の結果はまだ全国の結果が公表されておりませんので、全国に比べてどうかということは、わかりかねるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

やっぱり今オープンデータで、しっかりと見ればわかると思うんですわ。その辺、はっきりした数字が出てこんかもわかりませんが、その辺はぜひ把握していただきたいと思います。それにして、対応をどうすればいいかって考えていかないと。そらわかりますよ、意欲がない、学習習慣がない、低い、そうすれば、どうすればいいかって考えていかなければならない、やっぱり定着してない。教育がよくならなければ、やっぱり移住もしたくない、医者も来ませんよ。いろいろな形で教育がよくなるような仕掛けづくりを含めて、教育委員会がやらなきゃだめなんです。その辺、やっぱりしっかりと把握しながら分析して、どういう活動していけばいいのかと徹底的に、この総合戦略じゃないですけど、総合戦略を教育委員会としてはどうすればいいかって、ぱっと9月ぐらいいまでに出してきてくださいよ。その辺いかがですか、そのぐらいの覚悟はありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

今年度、子ども一貫教育方針の基本計画を作成する予定になっております。そこで到達目標を掲げるように考えておりますので、学力についての数値的な目標、それからいじめ、不登校等についても、数値的な目標を掲げてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

子ども一貫教育は昨年度に方針出して、また基本計画を立てるってわかってます。あれ5年も前からやってるんですよ、日本一って掲げながら。それでもアップしていかない、下回っているんだ。その原因は何かというのをしっかり把握して分析しながら、どうすればええかって。しっかり福井や秋田、勉強してくださいよ。

そこで福井。幼稚園と保育園、小1プロブレム、就学前、小学校入学時の段差を感じさせないように、読む力、書く力、鍵盤ハーモニカ、跳び箱、マット運動、それぞれ幼稚園、保育園でやってきとる。小学校に入ってもその辺の形で、毎日宿題をやる習慣化、小学生からどんどんやっていく形で、本格的には小4ぐらいから定着化して中学生に結びつけていく、その辺を徹底的にやってるんですよ、家庭教育と地域とともに。それで出てくるのが、21世紀型コミュニティ・スクール。コミュニティ・スクール、今回からやろうとしてるんですか、それを考えて。その辺は考えてますか、いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

福井の実践につきましては、今、私も非常に興味を持って勉強してるところであります。

また、今年度は職員の研修で、幼稚園、保育園と小学校の接続についてのスタートカリキュラムづくりということを研修に取り組んでいるところです。

福井の教育につきまして、今、議員に教えていただきました自発学習につきましても、私、まだ不勉強でしたので、これから研究を進めていきたいというふうに考えています。

コミュニティ・スクールにつきましては、今年度、ひすいの里総合学校と糸魚川小学校を準備校として指定をし、来年度からコミュニティ・スクールができますように準備をお願いをしているところです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ちょうど地方創生も含めて総合戦略、教育委員会を抜かしとるんじゃないですよ。教育現場でしっかりやってくださいよ。9月の短期を含めて5年計画とかいろいろありますが、やっぱりやるべきことはやって、教育が一番私は根本だと思うんで、そこをしっかりとっていかないと、移住、定住も含めてできんと思うんです。そこをしっかりとって、出ていきますよ、頭って言やおかしいですけど、やっぱり学力の低い方がおる形がとられてるんで、福井は出ていっても戻ってくるような体制をとっとるんですよ。それで起業して、自分たちで稼いで、女性も来てる。その辺も含めて地域全体でどう取り組むかっていうのが一番大事なんで、その辺も含めて教育の大切さというのは一番わかると思うんですが、その辺いかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

昨年度、子ども一貫教育方針の検証を行っていただきました際、各委員の皆さんからお声をいただいたのは、やっぱりこれからもっとも地域ぐるみの、市民ぐるみの教育にしていかなければいけないということをご指摘をいただきました。幼・保、小・中という連携はとてもよくできているけども、今度は地域と学校との連携ということが大事だろうと、そこが一番大切だと。市民ぐるみで子供たちを支えていくということが大切だというご指摘をいただきましたので、そういうことも受け、コミュニティ・スクールということ子ども一貫教育方針を進める際の1つの手法として、考えていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

それで、学力テストの平均が低い原因は何かという本当の追及に入るんですが、子供たちの先ほど意欲もあった、学習の習慣化も強いんですが、厚生労働省、2014年度、全国の児童の6人に1人が貧困状態である、その辺もあるんですよね。非正規雇用が固定化したこともございまして、子供が塾に行けなかったり、きちんとした食事をとっていないとか、総体的貧困がふえてると。家庭の貧困が学力に影響されていると厚生労働省は言うてるんですが、糸魚川の実態というのは、その辺の把握はしてるのかどうか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

貧困と学力のことにつきましては、まだ十分分析をしておりますが、学習塾のことを申しますと、学習塾で勉強してるかという調査につきましては、小学校では全国よりも低くなっておりますし、中学校でも全国よりは10ポイント以上、下回っておる結果になっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

塾へ行った行かんではなく貧困状態、今、聞いとるのは全国では6人に1人が貧困状態なんですが、糸魚川の状態はどうか。よけりゃよいと言ってください、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

障害児関係を取り上げていくと、障害児関係もふえています。それから確実にふえているのが準要保護だと思えます。したがって、子供たちの家庭の中に、貧困化がだんだんだんだん進んできていると。これはそういう考え方をして間違いないかなと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

その辺がふえてるいろいろありますが、その辺、何%なのか、その辺の把握というのは、具体的にわからんならわからん、わかるんなら言うてくださいよ、しっかりと。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

そこら辺の判断材料の1つとして、就学援助を受けている子供の割合という数字でしたら、一定の率はお示しできるかと思うんですが、今、手元にございませんで、わかり次第、またご報告いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

後で結構なんです、やっぱりその辺も把握しながら、塾へ行ってない子供が小学校も低く、中学校も10ポイントぐらい全国平均より低い。その辺になってくれば塾へ行けばいいとかでなく、そういう方々を県内で4市が学習支援をやっとるんですよ。教員OB、大学生無料教室、そういう方々も上げていかな、レベルアップしていかな、低所得者世帯の子供たちを県内4市で学習支援をしてるんですよ。わかってますか。その辺、かなりのところがやってるところを見習ってくださいよ、どのぐらいおるかを把握しながら、その辺は支援していかならんんです。全国的には6分の1なんですから、その辺を把握しながらやっていっていただきたい。

それと、いろいろな形で今、コミュニティ・スクールもございました。地域一体になって、そういうOBの方々も一緒になって夜でもいいし土日でもいい、いろいろな形で補習や、そういうできるところを設置しながら、各方面に3つばかりでいいですよ、能生、青海、糸魚川とかを含めて、今、中学校単位でいいんですから、その辺も含めて補習授業をどんどんやっていってくださいよ。学校でできないことを地域で、全体でやっていかならん状態が、今、上がっているんですよ、増加しているんで、ぜひお願いしたいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

今年度、中学生の補習授業を予算化をいたしまして、各中学校区に教員のOBの方等を、1名か2名になってしまうんですが配置をし、補習授業を行う計画になっております。今、学校と打ち合わせを行っておりまして、テスト前の質問教室ですとか夏休み中の補習に、その方々に援助をお願いしたいということになっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

本当に一、二名でなく、やっぱり先ほど言うた4中学校単位で最低1人とか、いろいろな形で補えると思うんで、その辺もぜひ検討していただきたいと思います。

それでこの教育委員会全体を見ますと、教育委員会制度改革もございます。それで総合教育会議の設置というのはいつ行う予定なのか、その辺のめどを教えてくださいと思うんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

岩崎総務課長。〔総務課長 岩崎良之君登壇〕

○総務課長（岩崎良之君）

6月24日に第1回の会議を開催する予定です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、その中で設置するのが全国的に言われとるところで、その辺も含めて、総合戦略も含めて、やっぱり教育委員会としてどうすればええか。今、市長が入っているいろいろな形でやる方向を、市長部局もタイアップしながら、やっぱり教育の改革も含めて糸魚川市としてどうすればいいか、子ども一貫教育基本方針も出ましたが、基本計画も含めてやっぱり短期でやれるところはやってください、しっかりと9月までに。

ということで英語のほうなんですけど、英検、今のところ各種検定受検者補助金とか含めて、英語検定はどのぐらいの確率で準2級とか3級、4級とか、今現在、中学生、何名がその級に当てはまるのか、教えてくださいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

英検のそれぞれの級の認知につきまして、今、資料を持ち合わせておりません。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

英検の各級については、人数をこれから確認をしなければいけないのであれですが、英検の補助を始めたころの全体に占める、中学校の在籍数に占める割合というのは、受験者が29.23%だったんですね。それが平成26年度になって49.25%まで上昇してきております。これは学校が子供たちに働きかけてくれた結果、子供たちがその気になって取り組み始めているという部分ではないかなということで、実は喜んでいる部分です。

それから昨年度実績でいきますと、昨年度だけでその受験者の中の数字を見ていくと、準2級が20名受けて4人合格、それから3級が95人受けて60人合格、4級が199人受けて145人合格、5級が245人受けて196人合格というふうに、それぞれの級に挑戦している子供たちの数が多くなってきているということで、ご理解いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

それでパーセント、国が示しているのは中学校卒業段階で英検3級程度以上を達成した中学生の割合が50%を目標、50%ですよ、人数、それを目標にして行われている。それで文部科学省が出している全中高校生に英語新テスト、これも導入が決まっていますよね。やっぱり大学受験でも4機能の到達度をはかる。英語を朝の会話だとか、いろいろな形でやっぱりグローバル化の時代なんだから、今、その辺も含めて英語特区をスタート。

岡山県の総社市ですか、これも幼稚園とかいろいろな形で特区制度をやりながら、ヒアリング、スピーキングを重点に置いて英語教育をやっている。このくらいやっていく必要が、私は必要だと思うんです。やっぱり外国人が来たりしたら、大人は対応できるかどうか分かりませんが、子供が対応できるような形をとって、受け入れをして、会話していただく。そのくらいできるような子供たちを育てれば、やっぱり子供たちも留学したくなったり、移住したくなったりするような方向があると思うんですが、その辺の考えはないんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えいたします。

県でもグローバル化、グローバル人材の育成ということが重点の1つとなっております。また、新しい指導要領が間もなく出されると思いますが、2020年度から完全に実施されるのではないかと思います。今、5、6年生から週1時間行っている外国語活動が3、4年生におりてきて、5、6年生では週3コマ程度、教科化というようなお話も出ておりますし、中学、高校ではオールイングリッシュで授業を行うというようなことも出ております。何よりも教員の英語力、指導力の

向上というのが、最大の課題ではないかと思っております。

現在、市内の小学校の教員１名と中学校の英語担当２名が、県の研修を受講しておりますし、また、別の小学校の教員１名が中央研修に参加することになっております。そういった教員を核として研修を行い、他校の教員に伝達をしてレベルアップを図っていくということを考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○１７番（五十嵐健一郎君）

ぜひ、今、人数聞きましたが、それらが本当に下におりて、すぐ皆さん方に教えられるレベルになっとるかっていうのは、なかなかそこまでいかないと思うんで、その数を、研修人材をふやして、それを福井で言う丸テーブル方式で皆さんに教える方式、専門家が違うところでいろいろなディスカッションしながら高めていって、そのやっぱり教師、指導者づくりですよ、やっぱり人材育成、それが必要だと思うんで、ぜひお願いしたいと思いますし。

先ほど言い忘れたんですが、子ども一貫教育の基本計画を策定するに当たって、やっぱりここにおる人だけでなく企業人からも入っていただいて、やっぱり子ども一貫教育を策定する必要があると思うんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

今年度の基本計画を策定する際に知・徳・体、そして特別支援教育、ジオ学習、キャリア学習につきまして、それぞれの分野で検討していただきたいと思います。その中にキャリア教育もございますので、地域の方々の青年会議所の方ですとかというような方にも委員になっていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○１７番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。後で出てくる体験とか、島根県の海士町でないんですけど、夢探求、夢ゼミ、やっぱり今必要なのは、子供だけでなく親の教育、親業ですよ、親業も必要。人間的にどうか、人間形成、他人力なんですよ、他人力、それが必要になってきているんで、やっぱりいろいろな形で企業人も巻き込みながらどうするか。

そこで専門職業大学構想、ここに言う職業教育の高等機関創設、この辺も含めて、ただキャリア教育とかやっとなんではなく、ここに誘致するぐらいの形はいかなもんかって、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

先日の報道によりますと２０１９年度、政府からの開校を目指すとした職業教育を、新たな高等教育機関についての報道がございました。まだ具体的なことが明らかになっておりませんので、そういった情報を注視しながら、中高生にとりましても新しい進路の選択肢の１つとなってくると思いますので、また詳しく情報を得ながら、そして市としてどういうことができるのか、情報を集めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○１７番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。情報を待てば、いつになるかわかりません。ビッグデータとかいろいろな形で情報を収集しながら、頭で考えて行動ですよ、計画と同時に行動をどう起こすか。３月のときに斉藤商工農林水産課長にも言われました現場主義、現場でどんどんやってくださいよ。やるように頭で考えて、市長に提言してどうすればええかっていうのを、これはやれる、やっぱり優先順位をつけてもらって、その辺やっていかないと糸魚川市は生き残りできません。ぜひやっていただきたいと思いますし、高校改革、後に保坂議員もありますが白嶺高校、今、海洋高校はすごい頑張ってるんですが、白嶺高校も糸魚川高校も３つの高校があるんで、３つの高校が、今、高校改革が叫ばれてる中、皆さんがやっぱり火つけ役ですよ。高校に言いながら職業のしょうをどうすればいいか、子供たちはどうやったら入れるか、全国から入れるような白嶺高校、糸魚川高校にもしていただきたいし、その辺になれば、やっぱりスポーツもありながら、文化もありながら、やっぱり学力も上げていかんなんと思うんですわ。その辺は、いかが考えているんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

海洋高校は今年度から、オンリーワンスクール・ステップアップ事業という県の事業の指定を受け、地域に根差した活動を進めているところです。今まで高校の校長先生方と教育委員会とで協議したりという時間、機会を持つことがなかなかできませんでした。ですが今年度、中学校、高校の校長会の際に教育委員会から出向いて、高校の校長先生方にも市の方針、また、中学校との連携について、依頼をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○１７番（五十嵐健一郎君）

今、予算的にもいろいろな形で幼・保、小・中・高連携でやっていくという時間がないって、これからやっていくんじゃ遅いんでないですか。予算化されて何もやってないのと一緒でしょう、

子ども一貫教育、１８歳までなんじゃないですか。その辺を含めて、しっかりとやっていっていただきたいと思いますが、今言うてればしょうがないんで、やってなければやってないんで、ぜひその辺も含めて、短期にできるところからやっていただきたい。

それと子どもゆめ基金、私も３月に言わせてもらった中で調査研究をすると教育長は言われましたが、まだ調査研究なんですか。３カ月たってのんですよ。これも総合戦略を立てるが、あと３カ月なんですよ。やるかやらないか、はっきり、優先順位はいろいろあるでしょうけど、これをやりながら、募集しながらどうするかというのを考えていくのは、子供に夢を与えるのは必要なんじゃないですか。その辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

燕市の子ども夢基金については非常に興味を持っているところでありますが、まず、市でできることを精いっぱいやるということが、第一ではないかなと考えています。市民の皆さんのご理解やご協力がないと、この基金を募るということもできないと思いますので、まず、どういう目的で、そして子供たちのために、地域の皆さんたちが応援しようという気持ちを皆さんで持っていただくということが、大前提になってくるかと思います。

そういった面でも、燕市の子ども夢基金につきましては今後の情勢を注視しながら、教育にどういうふうに取り組んでいくのかということについて注目をして、情報を集めて、今現在しているところでは、昨年度の３月のときに九千何百万円でしたか、基金が募ってあるということを見させていただきましたが、これからそれらをどういうふうに使われていくのかという件についても、情報を集めていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

先ほどお答えできませんでした就学援助における要保護と準要保護の児童生徒、これの生徒数に対する割合ということで数字を申し上げます。

小学校では対象が２３２人、全児童数２，０６６人でございますので、８．９人に１人という形になっております。これ平成２６年度の数字でございます。中学校におきましては対象が１５０人で、全生徒数１，１３９人に対しまして７．６人に１人の割合ということでございました。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○１７番（五十嵐健一郎君）

全国平均では６人に１人ですが、それよりもちょっと上回ってるんですが、その辺も含めて、ま

だやっぱりそういう形も含めてフォローアップできるような体制も必要だと思いますし。

ゆめ基金、先ほど私が言うたのも含めて、それで子ども一貫教育でどうすればいいのかって、それ使うところはいっぱい教育現場にはあると思うんで、海洋高校もそうやって能水会ですか、そういう形で集めたり、いろいろな形で。言えばやっぱり来ると思いますよ、子供はかわいいんだから、いろいろな形で利用すれば、優先順位つけてこれに 1、2、3 番目ぐらいのところで、何をやっていけば。先ほどの白嶺高校も、どうすればいいかって考えてもらえれば集まりますよ。ただ三条がやって情報を把握しとるだけではだめなんですから、ぜひその辺も含めて、やっていただきたいと思います。

それと次、東京五輪、パラリンピックも含めてですね、この東京五輪の首長連合ですか、全国 170 自治体で首長連合をつくって、三条の國定市長が会長で、5 年後に向けて各地の特産品とか、新しく開発した製品を海外に販売するための通信販売のシステムや、外国人観光客の誘致のために広域的な観光ルートなど、互いに連携してつくることを確認した。いろいろな形でやっとなんですけど、この辺は糸魚川市は入ってるのか。ぜひ入ってもらいたいんですが、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

たしか入っていると思っています。入っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17 番（五十嵐健一郎君）

3 月のときに、使えるのは陸上競技場と民間のゴルフ場があると言ったんですが、その辺の種目とか候補地になったんですが、その辺はいかがですか。パラリンピックも含めて、その辺の合宿誘致はどうなんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今現在、議員がおっしゃられるように陸上、またゴルフ、ラグビー、これについては、ことしの 2 月に合宿誘致の報告をさせていただきまして、今、まだ県のほうで集約をしている最中でありま。今後、事前キャンプ地候補地のガイドへの掲載、または全国知事会のオリンピック推進本部のスポーツのデータベースということで、活用されるというように思っております。まだ正式にはオーケーということではございませんけれども、今、そういうような状況であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

ぜひそういう合宿誘致も含めて、オリンピックだけでないんですよ。この前、登山の部で県大会があったり、そうなるとうちょうど中心部の北信越大会でいろいろやったり、今、相撲も頑張っていますし、北信越大会、糸魚川で野球やったりとか、いろいろな形で武道も含めてできるところがあるんですから、大きな大会は上越の武道館に任せて、こういういろいろなローカルな大会だとか、いろいろな形でできると思うんですが、その辺も含めて合宿誘致、選手育成、指導者育成も含めて、その辺はいかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

今、議員がおっしゃられるように合宿の誘致、非常に市も平成20年度から実績がございますので、そういう面も含めて体協、また、関係の団体と協力しながら、そういう枠の広がりを見せるような施策を、展開してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○ 17番（五十嵐健一郎君）

ぜひお願いしたいと思いますし、2030年のこの冬季オリンピック新潟開催、これも参議院議員の塚田一郎さんが、かなり力を入れてやって県内でもどうするか。会もできて候補地まで、どこで何をやるかというのも決まってきておるんで、それを目指してやるのが、今年度が北海道と対応する、今年度なんですよ。今年度どうするかって、もう決まってくる。その辺も含めて、やっぱり情報を流してくださいよ、持っとらんで。もうデータベースとかいろんな形で、ビッグデータも含めれば、かなりのことが進んどるんで、糸魚川としては何の種目。なんか余るところはスキー場が2つもあるんですから、いろいろな形で何ができるかっていうのを準備していく、もう2030年、15年前のこともやっていかんなんですよ。地方創生は2060年ですか、それも目指して、その辺いかがですか。全然検討も何もないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

2030年の冬季オリンピックの新潟開催の実現に向けてということでございますけれども、明確に県のほうからこうすべきであるとか、協力を願いたいという情報はまだ入っておりませんけれども、今、塚田議員のいろいろホームページ、また、いろんな情報を見れば、過去、国内で2カ所、北海道と長野県で行われたわけでありまして、冬季オリンピックというそのものが、非常に地域の限定されるところでありますので、新潟県も非常に有力なところであるというふうに思ってお

+

ります。

前回のソチの五輪でも、日本人が11人メダルをとっておりますし、選手団を見ても6割以上が北海道、新潟県、長野県で占めているという状況からして、決して可能性がゼロではないというふうに思っておりますけれども、大変膨大な事業の予算の措置も必要でありますし、新潟空港の整備、また、そういうさまざまなインフラの整備も含めて検討する必要がありますので、今後、情報の収集に向けてやってまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。今、札幌市の動向も踏まえて、新潟県としての立候補の最終判断は今年中に行う必要があるんです。その辺も含めて、やっぱりもう切羽詰まってるんですよ。県ですから手を挙げるかどうかも含めてなんですが、糸魚川としてもやっぱりいろんな形で、妙高のジャンプ台を使うとかいろいろ決まってるんですから、糸魚川として何の種目。そしてパラリンピックもあるんですから、その辺も含めて何を誘致できるかを早目に手を挙げてないと、すぐ取られますよ。やっぱりスノーボードの糸魚川中学校の伊藤さん、それで今、根知の佐藤栄一さんだとか、それで歌川選手だとか、いろいろな形で選手もおるんです。それでコーチ陣もしっかりしてる。そうなれば、やっぱりいろいろな形で何かができると思うんで、それから合宿誘致も含めてぜひやっていただきたいと思うんですが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

佐々木生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 佐々木繁雄君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（佐々木繁雄君）

お答えいたします。

また同じ答弁になりますけども、前向きに情報収集して、アンテナを張って検討してまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。これを見ますと、やっぱり絡んでくるのがあるんですよね、新潟冬季オリンピック。それで出てくるのが、上越、妙高からフリーゲージトレインなのか、糸魚川からのフリーゲージトレインなのか、その辺の整備も含めて15年後なんだから、その辺も中に塚田先生のがには入っているんですよ。やっぱりその辺も具体的に、何を整備していくのかっていうのが全部絡んでくるんで、ぜひその辺も情報収集して、早く進めていただきたいと思うんですが、その辺、何かいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

フリーゲージトレインについては、新潟県のほうでも非常に注目をしているような県知事の発言もございます。私どもといたしましてもフリーゲージトレインの技術開発の動向等も含めて注視をしながら、ぜひ乗りおくれぬように取り組みをしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

この前、泉田知事にも来ていただいて、上越、妙高だけではなく、糸魚川も優先順位に入っているということもおっしゃっていただいたんで助かったのですが、候補地は妙高のジャンプ台ですんで、その辺も含めて取られぬようにぜひお願いしたいと思っております。

それと、いろいろな形で、3月のときにも言わせてもらったんですが、十日町でスポーツコミッション、スポーツと観光と医療という形で連携した中で合宿誘致や、いろいろな形でやっていくと。そういうところに手を挙げる必要もあるかと思うんですが、体験とか修学旅行誘致も含めて、その辺いかがでしょうか。やっぱり考えとるのはあるんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

市では昨年度から体験教育旅行誘致促進事業補助金という制度を設けまして、お1人泊まれる方について500円の補助をしているところでございます。昨年度の実績でありますけども、約5,300人泊の実績がございました。この人泊というのは、10人が2泊すれば20人泊ということで、延べ5,300人ということですが、この補助金を使われた中で、新たにこの補助金を使われた方が2,200人泊ということで、約4割がこの補助金の成果かと言えるかどうか分かりませんが、少なくとも4割の方が新規でお泊まりになられたということでございます。こういった制度を使う中であらゆる方面から、糸魚川で宿泊をしていただきたいという取り組みを進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。初日の市長からの行政報告でありましたように、おくのほそ道の風景地ネットワーク設立総会、来年もでございます。やっぱり文化も含めてスポーツ、いろいろな形でトータル的に、やっぱり糸魚川はどうすればいいかというのを考えていく必要がございますし、今、5,000泊以上ですか、いろいろな形で出て結びついてきてる。

今、新幹線効果、だんだん下がっていくと思うんで、そういうのも絡めてチーム市役所、チーム糸魚川全体で取り組んでいていただきたいと、こう思っておりますが、先ほどあった糸魚川留学、海士町でやってる島留学、それ中学生や高校生を4泊5日の形で呼んで、隠岐島前高校に入学させるような方向性、この島はいいんだ、糸魚川はいいんだっていう形で、そういうのも必要だと思うんですが、糸魚川留学、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

相撲のまち糸魚川という中で、今、海洋高校、それから能生中学校に14人の方から来ていただいております。この方が、まさに糸魚川留学の1つの形だろうと思っております。

いずれにしましても糸魚川の地域資源を見出す中で、いろんな形でこういったお子さんたちに来ていただけるといったものに、取り組んでいきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。聖学院も30周年ですか、やっぱり聖学院の方々もすばらしいし、また、違う方々も呼べるような方式。いっぱい3校も4校も呼べじゃないですけど、やっぱりそういう形で、どんどん結びついていけるような形は必要だと思うんですが、そういう取り組みもやっていただきたいと、こう思っております。

それと1の（2）特別支援学校も含めて、やっぱり交流をしっかりとってください。交流が少な過ぎます。障害児（者）も含めて健常児とともにやっていくような教育も含めてやっぱり心を、今、精神的だとかいろいろな形も出てきとるんで、そういうのも必要だと思うんで、交流をしっかりとっていただきたいと思う。

それと糸魚川だけでなく、近隣からも障害児（者）を呼べるような体制づくり、この辺は共生社会も含めて、その辺いかがお考えでしょうか。やっぱりそういう方々を受け入れるような糸魚川にしてほしいんです。その辺はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

今、ひすいの里総合学校との交流を行っているのは、主に糸魚川小学校と、それから白嶺分校なんです。この輪をできるだけ広げていきたいと。まず、市内で障害を持った子供たちに対する理解を深めていく必要があるであろうと思っております。そういう取り組みを最初に行っていかなければいけないと思いますし、今、議員言われた他地域からの障害者の受け入れということも、これも重要なことなのかなという思いはしております。少し研究させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ。調査研究、聞いて何カ月も放っておかないように、ぜひ。やっぱりしっかり、だめなものはだめ、やれるものはしっかりバーンと深く研究しながら、どう取り組むかもしっかりやっていただきたい。

それと高齢者の関係で介護施設誘致、これも3月にやらせていただいた南伊豆町と、どこですか、東京の杉並区ですか、その辺も含めて。やっぱり糸魚川は、そこで雇用を生み出すような形っていうのは、先進地はやってるけど、二番煎じかわかりませんが、そういうのは必要だと思うんですが、その辺の具体的な調査研究、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

加藤福祉事務所長。〔福祉事務所長 加藤美也子君登壇〕

○福祉事務所長（加藤美也子君）

お答えいたします。

今、議員おっしゃられました東京都杉並区と静岡県南伊豆町の特別養護老人ホームの整備についてでございますが、昨年の12月に、この南伊豆町と杉並区、それと静岡県とで協定が結ばれたということの情報はいただいております。

また、特別養護老人ホームを誘致するに当たりましては、それぞれの県の介護保険の計画、また、南伊豆町の介護保険の計画にも載せる必要があるというふうにも、この情報ではあります。また、この2つの行政につきましては、昭和49年からの深いかわりがあるというふうにも伝えられておりますので、まず、そちらのほうの姉妹都市でありますとか、そちらのほうの交流を密にしながら進めていく必要があるというふうにも考えております。

また、施設整備をする中におきましては、介護施設での従事する介護職員の不足ということも、今現在、糸魚川市の中ではあります。そういう部分では底辺を広げるような取り組みを、今現在しているところでございます。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

聖学院とか世田谷区ですか、いろいろな形も出てくる。いろいろな形が出てくると思うんで、その辺も含めてやっていただきたい。

それと、この長岡発、消滅してたまるかというのを2年前からやって、八十何人の方々から出していただいた。長岡をどうするか、必要になってくる。提案型市民主役事業、私は必要だと思うんですが、その辺はこの総合戦略でいかが考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

今回、策定している総合戦略につきましては、産官学金労言ということで、とにかく多くの方の意見を聞き、そしてそれぞれが、それぞれの役割分担ができるようにということで、いろんな説明をする中で、それぞれ考えていただいて提案していただいたり、自分たちでできることはしていただくという中で、戦略を立てるという形になっておりますので、そういう中では多くの方から意見をお聞きしながら、戦略のほうは立てていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐議員。

○17番（五十嵐健一郎君）

ぜひ市民だけでなく、市民外からも提案をもらえるような糸魚川にしていっていただきたいことを言わせてもらいまして、一般質問を終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○議長（倉又 稔君）

以上で、五十嵐議員の質問が終わりました。

次に、保坂 悟議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。〔6番 保坂 悟君登壇〕

○6番（保坂 悟君）

公明党の保坂 悟でございます。

発言通告書に基づき1回目の質問を行います。

1、糸魚川市の品格とおもてなしの心について。

糸魚川市が50%出資している株式会社能生町観光物産センター（三セク）において、「かにや横丁」が4月にリニューアルオープンしました。しかし、9軒あるカニ屋のうち1店舗だけが、古い施設で営業を行う「いじめ」の光景を買い物客にさらしております。糸魚川市の品格やおもてなしの心を損ねております。三セク側の店舗配置により、一審判決で敗訴した本質が「排除といじめ」にあることを証明しております。そこで、以下の点を伺います。

(1) 一審で敗訴した三セクが、勝訴した店舗に「いじめ」の店舗配置を行う意味は、「裁判の結果にかかわらず排除します。」という意思表示になりますが、市はどのように受け止めているのか。

(2) 糸魚川市の観光拠点での「いじめ」行為は、交流人口拡大の施策に支障があると思いますがどうか。

(3) 子どもたちが出入りする施設（三セク）の「いじめ」行為を、教育委員会として断固抗議すべきと思いますがどうか。

- (4) 糸魚川市の三セク施設における排除行為は、移住・定住希望者に不安を与えます。総合戦略に悪い影響を与えていると思いますがどうか。

2、子育て支援について。

- (1) 子どものインフルエンザ予防接種費用助成の拡充について

受験の季節に中高生とその家族、また、各学校におけるまん延防止のため、助成対象を高校卒業まで拡充すべきと考えますがどうか。

- (2) 「わんぱくホリデー」について。

中央保育園の提供を廃止し、4月より「ジオパル」の活用となりました。その利用状況と課題はどうか。

「糸魚川市次世代育成支援後期行動計画（H22～H26年度まで）」では、市内3か所設置の計画でしたが、その後の進捗状況や経過はどうか。

- (3) 学童保育の時間延長について。

昨年の6月定例会と今年の予算審査特別委員会において「時間延長の方向で検討する」と答弁がありました。その進捗状況はどうか。

- (4) 発達障がい等の支援拡充について。

めだか園の利用登録者数が平成21年度の50人から平成25年度の80人へ増加しております。気になる子どもへの早期発見・早期対応の周知と支援の成果であると評価しております。更なる支援体制の拡充が必要と考えますが、今後の課題はどうか。

3、糸魚川白嶺高校の魅力づくりと地域活性化について。

少子化により県立高校の統廃合が進んでおります。糸魚川市の平成25年度の出生数は281人なので、15年経てば、市内3高校で40人学級で7クラス分になります。したがって、海洋高校のように市外から生徒を呼び込むくらいの魅力を作らないと白嶺高校の存続は厳しいです。また、普通科（糸魚川高校）との統合となれば、産官学連携による活性化事業はできにくくなります。以下の点を伺います。

- (1) 地域産業に直結した人材育成について。

県立新津工業高校は、県のオンリーワンスクール推進事業により、高度な技能や伝統的技能の習得と小中学生へのキャリア教育を行っております。このような取り組みの導入はどうか。

- (2) 産官学による地域資源を活かしたビジネスづくりについて。

生徒たちが糸魚川で働きたくなる仕事環境を地域ぐるみで研究する機関を設置し、総合戦略に沿った新ビジネスづくりはどうか。

- (3) 産官学連携による魅力ある課外授業の設置と支援について

基礎学力の徹底的補強を行う教育支援はどうか。

あいさつや礼儀、マナーを身につける教育支援はどうか。

ジオパークガイドができる英会話力の養成支援はどうか。

4、生活困窮者自立支援制度について。

今年4月より生活困窮者自立支援制度がスタートいたしました。自治体に総合相談窓口の設置を義務付け、相談者一人一人に合わせた自立プランを作成し、必要な就労支援や福祉サービスにつな

ぐ画期的なものであります。以下の点を伺います。

(1) 必須事業について。

自立相談支援事業と住居確保給付金事業の課題はどうか。

(2) 任意事業について。

就労準備支援事業、家計相談支援事業、就労訓練事業、生活困窮世帯の子どもの学習支援事業、一時生活支援事業などを国は示しておりますが、当市の取組状況はどうか。

(3) 生活困窮者の把握方法について。

この制度の周知徹底はどうか。

様々な理由で行政相談が難しい方への対応はどうか。

(4) 生活困窮者自立支援協議会の設置について。

この制度の円滑な運用には、住居や雇用の提供が大切であります。地域の事業者等による協議会の設置はどうか。

5、持続可能なまちづくりについて。

総合戦略で成果を収めるには、市民の本音（実態）を把握する必要があります。つまり、平均値や推計ではない的確なニーズや意識調査が必要であります。以下の点について、わかる範囲で伺います。

(1) 保護者の子どもに対する就職（希望）観について。

地元に残したいと考えている保護者の数はどうか。

希望する就職先を優先したい保護者の数はどうか。

就職時の初任給の希望額や就職先の規模はどうか。

(2) 固定資産の管理観について。

現在、農家で後継者がいない方の数はどうか。

農家をやめた後、農地の活用方法や管理方法はどうか。

農地を貸す条件と借りる条件はどうか。

農家が減少した場合の農業用水の管理方法はどうか。

現在、山林を管理する後継者がいない方の数はどうか。

山林を貸す条件と借りる条件はどうか。

所有する空き家と空き施設の活用方法と処分方法はどうか。

地元の後継者がいない方のお墓や宅地の管理はどうか。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

1番目につきましては、店舗が現在の位置に配置された経緯であります。リニューアル前のかにや横丁の変更契約について裁判所に判断を委ねたものでありまして、現在も審理が継続中であり、新たな店舗での契約が困難なことから、現在の位置といたしてのものです。

現時点では、交流人口の拡大等に支障があるものと思っておりますが、係争中の事件につきましては、できるだけ早く解決を望んでおります。

2番目の子育て支援のご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

3番目につきましては、市は県立高校のカリキュラムに直接かかわることはできませんが、行政、高校、中学、地元産業界が連携し、キャリア教育の充実によります人材育成が重要であると考えております。

また、キャリア教育の充実を高校に働きかけ、産官学が一体となった地域参加型のキャリア教育について高校とともに研究し、課外授業等で白嶺高校と連携をできるものがあれば、協力して実施してまいります。

4番目の1点目につきましては、制度の周知、生活困窮者の把握や住居確保給付金の限度額で、利用しづらい点などが課題となっております。

2点目につきましては、現在、取り組んでおりませんが、相談者のニーズを把握し、検討してまいります。

3点目の1つ目につきましては、市の広報とホームページで周知しておりまして、民生・児童委員の皆様にも制度を説明し、情報提供をお願いいたしております。

3点目の2つ目につきましては、相談者の状況により柔軟に対応することとしておりまして、訪問による相談も必要と考えております。

4点目につきましては、今のところ協議会の設置は考えておりませんが、ハローワークをはじめ関係機関や民間事業者と連携を密にして、制度の円滑な運用を図ってまいります。

5番目の1点目につきましては、保護者の意向も大切な要素の1つであると考えておりますが、現在、これらの数値は把握いたしておりません。

2点目の1つ目につきましては、平成24年に実施したアンケート調査結果では、7割強に当たる1,600人以上の方が、後継者はいないと回答されております。

2つ目につきましては、ほとんどの方が地域の担い手等への貸し付けにより、農地の活用及び管理をされております。

3つ目につきましては、米価が安定しないことから貸し手、借り手、ともに短期の貸し借りを希望される方が多い状況にあります。

4つ目につきましては、日本型直接支払制度により、住民等を含む地域組織が行う維持管理活動を支援してまいります。

5つ目につきましては、後継者がいない方の数は把握しておりません。

6つ目につきましては、条件等の情報は把握いたしておりません。

7つ目につきましては、空き家情報提供制度により空き家を登録していただくなど、活用の促進を図っております。処分については所有する方の思い入れや解体費用の対応が必要なため、進んでいないのが現状でございます。

8つ目につきましては、管理者が不在の施設について実態を把握いたしておりません。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

保坂議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目につきましては、これまで13歳未満までを対象に、接種料金の半額を助成しておりますが、今後、助成を拡充した場合の子ども医療費の削減効果等を調査研究してまいります。

2点目の1つ目につきましては、わんぱくホリデーとしてのジオパル来場者数は把握しておりません。

ジオパルは北陸新幹線開業直後、来場者が多く、混雑が続く状況でしたが、今後、わんぱくホリデー事業の代替施設としての利用を周知してまいります。

2つ目につきましては、平成27年度から実施する子ども・子育て支援事業計画では、既存施設や公共施設を活用し、ニーズに応じて対応することとしております。

現在、ジオパル以外にもビーチホールまがたま、能生児童館、青海総合福祉会館ふれあいを活用し、利用促進に努めております。

3点目につきましては、18時以降の利用希望がある児童クラブから、来年度以降の実施について調整してまいります。

4点目につきましては、発達障害児は適切な対応により、よい状態になることが可能であり、園、学校、家庭が一体となった取り組みが必要であります。そのため全ての親、園と学校の職員が、子供への適切な対応を学ぶ場を設けることや、全体を見通してコーディネートできる職員を育成することが課題となっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

お願いします。

まず最初から、糸魚川市の品格とおもてなしの心についてであります。

三セクが1審判決に不服で控訴することは自由なんですけど、店舗明け渡し裁判でも最終結論が出ていない状況、9店舗をやっぱり同様に扱うことが自然であると思います。

また、観光誘客施設というからには、利用するお客様のこととテナントの営業のことを第一に考えて運営しなくてはならないと思います。

三セクは糸魚川市が50%を出資していること、米田市長が社長であること、国交省で登録されている道の駅であること、糸魚川ブランドの紅ズワイガニの直売所がそろっていることから、糸魚川市を代表する観光誘客施設であり、まさに糸魚川の顔であります。しかも、ほぼ公の施設とっていいです。

その施設内で、裁判をしてるからといって1店舗だけ差別的な扱いを行うことは、施設の設置目的を逸脱していると考えます。糸魚川市の品格とおもてなしの心を全否定した行為になります。この施設が行っている差別行為については、市はどのように考えているのか、その考えをお伺いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

現在、審理が継続中でございます、係争中です。この状態の中では自力救済禁止の原則にのっとり、法理的手続を行うことが要請されております。この手続がなければ新たな行為が行えないということで、現在の配置というようになっていると理解しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ということは、もう裁判の判決が出るまで、ずっとこの状態でいくということで、糸魚川は糸魚川の顔としての役割は、もうこれでしょうかないということによろしいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

一般的にはこういった事案の場合には仮処分といったような対応の中で、判決が確定するまで回復できない損害が生じる場合などに裁判所が暫定的な取り扱いを決めると、こういった行為は考えられます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

糸魚川市の重要な観光施設として、また、いろいろなお客様を迎える場所として、このままでいいと思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

現状では裁判、係争中でありまして、これ以上お答えすることはできません。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

次に、3月定例会で古畑議員も指摘しておりましたが、いま一度、この裁判を起こされた被告の立場をちょっと考えていただきたいなと思います。

三セクの社長が市長であるため、市長の名前で裁判を起こされたというだけで、あたかも糸魚川市や市民に迷惑をかけているような印象を世間に与えております。さらに市長相手の裁判となれば、それだけで大きな圧力がかかるというふうに考えます。そのことを市長はどのように受けとめて、今回、この裁判、また控訴というふうに踏み切ったのか、その辺の気持ちを教えていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり会社には規則がございます。その規則に反したという形の中において、そのような方向性になったと捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

三セク側は1審の判決で敗訴しております。しかし、間髪入れずにすぐ控訴をしておりました。三セクも市長の名前を出す以上、よほどの裏づけと調査を行った上で、裁判を行わなければならないと思います。糸魚川市に迷惑をかけてはいけなはずだと思います、三セクが。そこで2審の控訴前に、一応、50%出資している糸魚川、行政に対して、この三セク側から行政を納得させるだけの控訴理由というものをきちっと聞いておるのか、その辺ちょっと確認させてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

会社が主張しているものに対する判決であったかどうかを、もう一度判断を仰ぎたいということで、今回の控訴になったというように聞いております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

そこで教えていただきたいんですけども、その三セクから行政にそういう内容の説明があったときに、実際、その裁判を控訴するに当たっては、５０％出資している糸魚川市としては、ちょっと待ってくれよとか、そういうことというのはもう一切できなくて、もう役員会議で決まったことは、それはもうそのまま認めるしかないという判断でよろしいのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

株式会社であることから、取締役会の判断が優先するものと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○６番（保坂 悟君）

ということであれば、基本的には市は関係ないという言い方はちょっとおかしいんですけども、その控訴する判断については、市は関与しないということによろしいという捉え方でいいですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

あくまでも会社の判断というように認識しております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○６番（保坂 悟君）

会社の判断ということで、これまでの三セクの動きを考えると、普通なら１審で敗訴すれば、法的に三セクの主張が認められなかったということで、慎重に敗訴要因を分析し、なおかつ勝つための準備というものを用意周到に行うと思うんですね。しかし裁判の狙いが、その三セクの動きを見ていると、排除にあるのであれば社長が市長であることを利用して、その名前を使って裁判を起こすことによって、被告に権力という圧力をかけることが主眼にあったというふうに捉えられてしまうおそれがあると思うんですね。だからその控訴の決定も、速やかに行ったのではないかとということが推測されます。こういうことを想像されるというふうに行政は考えなかったんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えいたします。

その部分については係争中であり、お答えすることは差し控えさせていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

係争中とか、多分、そういう問題ではないと思うんです。ただ、三セク会社が控訴していくに当たって、いろんな推測、憶測が働くだろうと。ましてや糸魚川市の観光施設であると。仮にも、たまたまなんでしょうけども、市長が社長ということで、そういう方が裁判を起こされた場合に、糸魚川市もどうしても関与づけられてしまうんじゃないかということを想像はできなかったのかと聞いているんです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりいろんなものに対して、また立場や、またいろんな方々の考え方によっては、そういったいろんなものが考えられるわけでありますが、だからといって、じゃあそのルールといいましょうか、規則をどうすればいいのかということになってくると、やはりそれまでの間は非常に対応を、破ったからすぐということではないわけでありまして、それまでの間もいろいろと協議をしてきた中において、そういった形になったわけでありしますので、それはいろんなことを想定できなかったか、推定できなかったかということと言われれば、いろんな考え方があるかと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

1つ教えていただきたいのが、今、規則を破ったというふうなお話でありました。その規則を破ったかどうかを、今、裁判をしているんだと私は思っているんですね。だからその時点で、1店舗だけお店の扱いが変わるとというのが非常に不自然だというふうに素朴に思うんですね。その辺をもし説明していただければ、行政が説明するのはおかしいのかもしれませんが、解釈としてどういうふうに捉えているのか、教えていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

それが1審での判決なんですけど、その辺がなかなか理解できない部分がございますので、その辺を明確にしたいということで控訴をさせていただいた、今の係争中の件でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

だから1審判決で法的には出ましたよね、結論は。そうじゃなくて、今、争っているわけですよ。三セク側は規則を破ったと言って、こっち側は破ってないと言って争っているわけです。だから現時点で施設の中でフィフティー・フィフティーの扱いをしなければ、不公平が生じてるんじゃないですかということを言いたいんです。それは行政の立場から見てどうなんですかということを聞いているんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

係争中の案件について、先ほど申し上げましたように自力救済禁止の原則といった考え方がありますので、これにのっとってやむを得ないものと考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

私の勉強不足で、その自力救済のところ、多分、かみ合っていないのかなと思いますけども、私とか市民から見れば、あの現状を見ると結局、仲間外れにしている姿にしか見えないわけですよ。まだ裁判の結果が出てないんであれば、ましてや新施設のほうにはスペースもあいてるようですし、そこで営業してもらって、肅々と裁判をして、その結果を受けとめた上で判断を行ったほうが市民にも受けがいいですし、準公の観光施設の見た感じもよくなるし、それがベストだというふうに思っておるんで、そこを何とかできないかという思いで3月議会でも円満解決を望んだんですが、それはやっぱり現段階では、何遍も聞きますけど無理なんですか、その手続を踏めば回復できるんですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

今回の訴訟のほうは、その建物の明け渡しを請求したものであります。ところが裁判の結果は、明け渡しはしなくてもいいという結果であります。したがって、今のままそこから出ていってどうのこうのということは、現状、変えることができないということで、今のこのような状況になっておるということで、ご理解願いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○ 6 番（保坂 悟君）

すみません、理解力がなくて。その言い分というのはわかっているんです、言い分というのは。ただ、あまりにもはっきり言って見ばえが悪いってということなんです、糸魚川市として。糸魚川市の有力な観光施設として、あまりにも見ばえが悪いもので、そこを何とか改善できないのかと、そういう努力はできないのかと。ただ、別のところで裁判はやっててもいいと。だけど、その見ばえだけは何とかできないのかということを知っているんで、そこをちょっと変えていただければと思います。

○ 議長（倉又 稔君）

暫時休憩します。

午後 4 時 0 4 分 休憩

午後 4 時 0 8 分 開議

○ 議長（倉又 稔君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○ 6 番（保坂 悟君）

休憩中に若干説明は受けたんですが、確かに私のほうは超法規的な対応をしてくれと言ってるのかもしれませんが、あまりにも糸魚川市へのダメージが大きいものですから、そこを何とか新しいそのスペースに入れていただくなりして、裁判中であってもその見ばえをよくして裁判を進めていただきたいという思いなんですが、もしその経過が説明できるのであれば、説明を伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○ 議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○ 副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

先ほども申しましたとおり、今回、建物の明け渡しを請求した裁判であります。その結果、明け渡しをしなくてもいいという判決があったということで、現在、そのようになっているわけでありまして、確かに見ばえが悪いというのは私も感じます。

ということで、これにつきましては先ほど市長が答弁しましたとおり、この係争中の事件については、できるだけ早く解決したいということで、今、和解等に向けまして努力をしてるところであります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

平行線になるんですけども、あくまでも法律にのっとった形で今の形になってるということですよ。ろしいですね、法律にのっとって今の形になってると。

じゃあ次の質問にいきます。

マリンドリーム能生の公式ホームページというのがございます。カニ屋さんが9軒、現在あります。8店舗しか、そのホームページで紹介されておられません。現在もそうってます。一見、糸魚川市とは直接関係ないようですが、やはり50%の出資を行っている施設で、いじめ防止条例を制定してる市として、三セクの公式ホームページで仲間外れやいじめがあることは、対外的にやっぱり糸魚川市の品格や、おもてなしの心を踏みにじられていることになるんだと私は思っております。

そこで被告のカニ店舗に確認しましたら、平成24年8月からホームページの掲載はないと伺っております。平成24年5月に三セク側は、店舗明け渡しを求めて提訴しております。つまり店舗を明け渡す裁判を始めたばかりの時点で、施設の公式ホームページから掲載を削除することは、裁判で争う前から、結果が出る前から排除といじめということを行っているように見受けられるんですけども、その経過、また、その公式ホームページについてのことを、交流観光課としては把握されていたのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

その件につきましては、交流観光課としては承知しておりません。しかしながら、どういう状況か等につきましては、今後、会社と話をしてみたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

確認ですけども、さっきのは場所明け渡しの問題だったので仕方ないと。ただ、公式ホームページから外すというのは、これも法的なものでか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

私もその件につきましては、たった今聞いたわけでありまして、それにつきましては近々、会社の三セクのほうと話をさせてもらいたいと思ってます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

+

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

では今、副市長は初めて聞いたと言いますけども、今度は教育委員会にちょっとお尋ねします、確認です。

子供のいじめについて教育委員会では市議会、特に総務文教常任委員会から厳しい追及を受けました。議会から相当強く言われて、いじめ防止条例が制定されております。そうした背景から、どこの所管よりもいじめというものに対しては敏感でなくてはならないと思います。子供たちのお手本となる大人が、今のホームページ1つとっても堂々といじめ行為をしてると私は思うんですけども、教育委員会のいじめの定義からしてそれはどうなんですか。いじめに当たらないですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはりその会社の規則に抵触をしたことによって、そういった店舗を明け渡す形になっておるわけでございますので、そういったことにのっとって、この会社のいろんなところからの名前が消えたのだと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

さっきの明け渡しは明け渡しで、施設、建物ですわね。でも、少なくとも三セクのエリアの施設の中で営業はできてるわけですよ。そこはおかしくありませんか。立ち退きの裁判とホームページの削除というのは。だってそのエリアで営業してるわけですから、そこを削除するという、その感覚がわからないんですけども、いじめの定義から見てどうですか、これは。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

係争中の案件ですので、回答は控えさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

係争中、係争中と言ってそう言われてますけども、現実問題として、これから言いますけども、三セクの観光施設というのは、小さな子供から高校生まで訪れる場所なんですよ。これは施設です

けど、1店舗だけ孤立した古い施設で営業させてる姿を子供たちに見せること自体、もう異様な姿であります。いじめに対して大人が毅然とした態度をとっていかなきゃいけないって教育委員会で教えてるわけですよ。今、こうやって説明を受ければ、建物がああいう状態になってるのはわかるけども、でも、営業してるそのホームページから、営業してるのに外すということに対して、それは定義から見てどうかって聞いているだけなんですから、そこは答えれると思いますけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えします。

非常に難しい問題だと思います。先ほど係争中という言葉を使わしていただきましたけれども、係争中の案件であるからこそ、なおさら私はそのことについて答えることができない。それでご理解いただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

まあ答えられないということでしょうがないですけども、次に、この移住・定住の角度からです。

今、地方創生に取り組む行政として、今、この三セクのこういう状態。今、事情を聞いたので建物が移れないのはわかりますけども、でも、そういうことじゃなくて今の見えてる状態、今の施設の状態、今度、総合戦略の予算獲得に私は少なからずやっぱり影響があるんじゃないかと思っております。道の駅の登録を所管している国土交通省にしてみても、店舗明け渡し訴訟を行っている道の駅って何だろうと。また、敷地内で営業を行っている店のホームページから外すということは、どういうことなんだろう。また、外部の方がこういった姿を見たときに、移住したいと思うかどうかということを考えたときに、私は悪い影響を与えてると思うんですね。だから何とか超法規的な措置で、見ばえのよい形にしていきたいと思いますと思うんですけども、悪い影響を与えてると思いませんか、単純に。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

悪い影響を与えているかどうかというのは、来場されてる方の状況によると思っておりますけども、先ほど冒頭、市長が申し上げましたように、特段、大きい影響はないというふうに思っております。

ただ、見ばえが悪いのではないかというご指摘につきましては、そういう面もあるということで、先ほど副市長が申し上げましたけれども、できるだけ早い解決に向けて、第三セクターの会社のほうにお話をしていくということが、現在の市の立場だと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

本当に今、糸魚川がこれから交流人口拡大だとか、今、総合戦略で人からどんどん来ていただきたいとか、新幹線も開通して、世界ジオパークも認定されて、いろんないい材料がある中で、本当に人目にさす場所というか、そこで今こういった状態が起きておるんで、それはもう本当に早く解決をしていただいて、皆さんが楽しい場所であるはずのところ、あんな雰囲気になっておるんで、とにかく早く改善をしていただきたい、努力していただきたいと思うことを要望させていただきます。

じゃあ続きまして、時間がないので、ちょっと白嶺高校のほうを先に質問させていただきます。

地域産業に直結した人材づくりであります、5月25日付の広報に、糸魚川市の子ども一貫教育方針のパンフレットが全戸配布されました。糸魚川市は0歳から18歳まで一貫教育を行い、キャリア教育の支援と推進を掲げております。

そこで昨年の6月議会一般質問で、海洋高校の活躍してる場面を見せたい、魅力的なキャリア教育につながると考えているという答弁をいただいたんですね。同様に白嶺高校でも、こういった産官学連携をとることによって、小・中学生にいろんな高校生との接触の場所とか見せる場所、また、キャリア教育につなげる取り組みをすべきと思うんですが、その辺の考え方、今いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

冒頭、市長からの答弁がありましたように県立高校でありますので、市のほうから特別、カリキュラムについて指導するということとはできませんが、先ほど五十嵐議員の質問にもありましたように、今年度、中学校校長、それから高校の校長との連絡会に私も参加させていただくことになりましたので、その際、白嶺高校のほうにも海洋高校のような小・中との一緒のキャリア教育ですとか、教育活動への協力ということについてもお話をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

その際、今、糸魚川市のパンフレット、これを見させていただきますと、やっぱりこの糸魚川ジオ学と、あと夢を育てるという大見出しが明確に打ち出されております。この糸魚川ジオ学を学んだからには、そこから発展的に何とか白嶺高校を通じて産業化といいますかね、そういったものを取り組んでいただきたいなと。小・中学校でジオ学を学んだ生徒たちが、それを生かす取り組みとして高校生の視点でどのようなことができるか、また、どのようなものがおもしろいのかというこ

とを真剣にディスカッションするような場を高校で提供をしてもらいたいし、また、市がバックアップしてもらいたいんですけども、そういうジオ学を通じての産業興しみたいな、そういう取り組みを検討していただきたいんですが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

議員おっしゃられるとおり、何とか小・中・高、さらに大学と連携する中で白嶺高校の総合学科としての位置づけがもっと明確になっていかなのかなという取り組みをする中で、ジオパーク学習の中では、他の高校ではジオパーク学科なりの取り組みというものもございまして、そういった取り組みもできないかということで、校長・教頭先生に働きかけを今行っているところです。その結果、去年は2回ほど総合学習の中で、ジオパークの説明等をさせていただきました。

また、大学との連携ということで、その中で大学の助手をやった方にも来ていただいて、ここで学んだことが、大学なり、次のキャリアにつながっていくんだといった形に、もっていけないかというような話をさせていただいてるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

ぜひ強力に押し進めていただきたいと思います。

次に、今度は夢を育てるという観点です。要は、糸魚川にいながらにして、やっぱりいかに夢を実現できるか。また、夢を実現するための環境づくりを行っていく必要が、私はあると思ってるんですね。そういう夢を実現していく生徒の立場を考えるべきだと。

勝手に私が名前をつけてるんですけども、いわゆる夢実現隊みたいなものを設置していただいて、その中身は白嶺高校に入学すれば産官学連携事業として、この夢実現隊というのは、要は、地域に住んでおられるいろんな技術や学術や、いろんな経験を持った方が先生になっていただいて、いろんな形で、直接、子供たちに指導、アドバイスをしてもらおうような、もちろん課外活動ですよ、課外活動でそういうものを立ち上げていただいて、何でいうんですかね、地域の達人からこの地域の子供たちを育ててもらおう。そして一番近道で自分の夢を実現するような、そういう何ていうか、プロジェクトというか、そういう取り組みをしていただきたいんですが、この辺、考えいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

議員ご提案の地域の教育力を使った課外授業ということで、とても興味深いと思っております。

小・中学校でも地域の教育力を使って、さまざまな活動がされております。高校でも可能であれば、そういうことを進めるということは、地域に根差した高校かなというふうに思っております。ぜひご提案をいただいた点、今度7月に中・高の校長会がございますので、その際、私のほうからお話をさせていただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

私の勝手な要望を挙げるとすればセメント会社さんであるとか、海洋高校があるんで、白嶺高校の場合だと農林業の関係とか観光業とか、また建設業とか、そういう方たちとぜひ連携としてプログラムがつくれれば、理想的かなというふうに思っております。

次に、今度3番目の産官学連携による魅力づくり、これもちょっとニュアンスが違うんですけど、これも課外授業として支援していただきたいなということで、3点挙げさせてもらいました。

まず、1点目の基礎学力の徹底補強を行う教育支援であります。今、「ビリギャル」という映画がやっておるんですけど、ご存じでしょうか。ある女子高校生の実話から映画化されたものであります。これまで全く勉強してこなかったため、高校2年生なんです。が学力が小学校4年生レベルの女子生徒がおりまして、このままではいけないといって学習塾に通い、私立の名門である慶応大学に合格するという話であります。

着目点は、要は抜け落ちているこの基礎学力をいかに補強したかということと、あと目標に向かって、しっかり執念を持って頑張れたかということなんですね。こういったものを「ビリギャル」ということで高校生に受けがいいということもあって、そういう言葉を使いながら、今まで高校に入るまでの抜け落ちている基礎学力を丁寧に指導する産官学連携の課外授業、「ビリギャル」体験コースみたいなものを設置していただいて地域の学力アップ。また、それをすれば必ず成績は、私はぐんと伸びるというふうに確信しておるんで、そういった取り組みをまずモデルケースで、夏休みぐらいから取り組んでいただきたいんですが、課外活動ということでいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

きょうの新潟日報の声の欄にも、高校生がその「ビリギャル」を読んで自分も一生懸命勉強しようという投書が載っておりました。勉強したいという意欲を持っている子供たちにとっては、意識づけにとって大変いい本だなというふうに私も思っております。

産官学を連携した魅力ある課外授業ということで、幾つかのご提案をいただいております。それにつきましても、白嶺高校にお話をしていきたいと思っております。

現在、課外授業については行っておらないということでありますので、ただ、ハローワークさんから来ていただいてビジネスマナーの学習をしたり、また、1年生で企業訪問したり、2年生がインターンシップというので、企業へ行って何日間か仕事をするという活動は行っているというふうに伺っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

次に、2番目の挨拶など礼儀やマナーを身につける教育支援ということでは、ハローワークさんのほうから少しやっけていただいているというお話だったんですが、何でこれを挙げてるかと言いますと、中・高生の挨拶について言いにくいんですけど、あまりよくないということを耳にするものですから。中・高生を責めるつもりは全くありません。むしろ大人のほうが、挨拶ぐらいもう常識でしょうとか、なぜきちんと挨拶しないのかって言って終わってるケースが多いんだと思うんですね。だからそこも子供たちにその挨拶の意義であったり、相手がどう受けとめるかということも、やはりきちんと私はレクチャーしてあげたほうが、社会人になってからスムーズな適応ができるんだというふうに思いますので、こういったものも教育支援として位置づけてしてあげたいなと。

もう1つ、今度は3番目のジオパーク英会話ガイドの養成支援であります。観光庁でピジット・ジャパンから始まって外国人観光客の誘客、また文部科学省の、先ほど五十嵐議員も言っておりましたけど、読み、書き、話す、聞くのこの4項目の強化、それから、また国や東京都では、東京オリンピックの受け入れ体制など、国際交流や英会話に対するニーズというのは非常に高まっております。

そこでいわゆる受験英語ではなく、やはりこの英会話を中心に語学力を身につけてもらうために、糸魚川らしいテーマとすれば、やっぱり小・中学校からなじみの深いジオ学を通して、地域のジオパークガイド養成という名のもとに、この英会話力というのをぜひ課外活動で養成してもらいたいなというふうに思うんですけども、その辺の考えは、いかがなものでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

山本こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 山本 修君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（山本 修君）

お答えをいたします。

県立高校でありますので、市教委のほうから積極的に指導するということが、なかなか難しいところではあります。今ほどのご提案、地域の教育力をアップする上でも、とても意義深いことかと思っておりますので、高校のほうに、この提案のご意見をお伝えをしたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

私も市長と同じ野望を持ってまして、何とか白嶺高校にジオパーク学科というものをつくりたいんで、その足がかりとしてやっぱり何か成功事例をつくっておくべきだと思うんですね。だから一見、県立高校という見方もあります。やっぱり地域の人材は地域で育てるという大前提で、ましてや糸魚川は0歳から18歳とうたってるわけですから、やっぱりそこは多少ちょっと財政面でも

考慮していただいて、そういう支援をやって成功事例をまずつくと、これがやっぱり大事なことだと思うんですけど、市長、その辺いかがですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

高等学校は、やはり県という教育委員会の中に入っておるわけでありますので、学校がその気にならなければ、我々は動けない状況であります。海洋高校みたいに、非常にそういった方向に対していろんな連携をとってくるものについては、我々が動きやすい部分があるんですが、やはり学校がその気になって、そういう気持ちを持たなければ我々は動けないというのが実情でございまして、我々も3年がかりで働きかけをさせてもらっております。そういう中においては、まだまだ我々としては不満なんですけど、少しは動いておるというのを感じております。

ですから我々は、もっともっとやはりその辺を、お互いに生徒たちが求めるものを、しっかりと把握しなくちゃいけないんだろうと思っております。今、地元の企業へ勤めればいいのかという問題ではなくて、もっとやはり気持ちが高まっている部分もあるのではないかなと思ってるわけでありますので、そういったところをジオ学の中で醸成できれば、我々は非常にありがたいと思ってる次第でありますので、その辺の提供をさせていただいております。

もう1つは、やはりいつかは帰ってくるかもしれませんが、一時期は大学なんかも、その連携もつなげてもいいじゃないかということで、高校で学ぶことが次の大学にもつながり、そしてまた地元にも貢献できるというような道筋が必要でなかろうかなということで、その辺も含めながら情報提供をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

今、市長の答弁をお聞きしますと、高校が動かないとなかなか難しいということであります。やっぱりここはチーム糸魚川じゃありませんけども、OBも多分かなりの方が地元にもおられると思いますし、冒頭に言いましたけども人口減少が進んでいくと、平成25年度の人数が281人ということになると7クラス、糸魚川高校と白嶺高校と海洋高校があって7クラスですよ。どういう割り振りになるかあれですけども、これをよくよくこの3つの高校を残すとなると、やっぱりかなりウルトラC的な取り組みをして市外からも生徒を集めて、みんな喜んで卒業して行って、できればその中で地元で起業してもらえよう、やっぱりそういう環境づくりは積極的に行っていかなきゃいけないと思いますので、むしろ高校を揺さぶるぐらいの地域力をまた発揮していければと思うので、その辺のまたお力を出していただければと要望とさせていただきます。

次に、子供のインフルエンザであります。高校の受験時は、やっぱり皆さん気になるころであります。一時期は、たしか18歳まで対応された経過があったかと思います。何とかそこを少しでも前倒して、ことしの冬から実施していただきたいなと思うんですが、いま一度その辺の考えを

お知らせください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

子供のインフルエンザを高校生まで対象にしておりました時期といいますのは、国を挙げて新型インフルエンザの対応に取り組んだ時期でございまして、それが終えんした時点で、従来の形の流行性のインフルエンザの接種助成に戻したわけではありますが、当時、医師会のほうから、特に2回接種の13歳未満の部分については、通常、高校生や大人が打つ費用の2倍かかるということで、その部分の助成ができないかというのを受けて、今現在13歳未満の2回接種、約6,000円かかるうちの半額助成をとる。これによって高校生や成人との負担のバランスが、一応とれた形になってございますので、議員さんご提言の今、受験のためにということになりますと、少しまたその全体的なバランスとの考慮も必要になってくると思いますので、予算の編成の中で財源を考慮しながら、全体的な優先順位づけをしていくということになろうかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

またこれも総合戦略と絡んできますけども、やっぱり地域の全部が、福祉とか医療とかなかなか上げられないけども、糸魚川にはこういうものがあるんだと、きらっと光るものがあるんだという部分で、私、ずっと米田市長に感謝しとるんですけど、このインフルエンザについては、ほかの自治体ではなかなか手を出さないことをやっていただいていますので、何とかそこら辺を充実して糸魚川のアピールも兼ねてやっていただきたいと思います。

あと、わんぱくホリデーについてでありますけど、今、残念ながらホームページでは真っ白けになっておりまして、ジオパルでということなんですけど、そのジオパルの、このわんぱくホリデーの受け入れ体制みたいなもの、スタッフであったりとか、授乳室であったりとか、そういうところの配慮とか人員スタッフの確保とか、そういったところの考えというのは、どうなっておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

雨の日の遊び場所のご紹介ということで、従来は中央保育園を会場にご案内を시켰たんですが、その当時も鍵の管理という形で1名配置しておりましたが、基本的には保護者が同伴で、子供をそこで遊ばせてくださいよという形でしたので、今、ジオパルのほうにつきましても、特別にそこで子供を見守るとかという役目の人員の配置はいたしておりません。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

先ほどジオパルもそうですし、青海のふれあい会館であるとか能生の児童館だとかという、あれはいわゆるわんぱくホリデーという位置づけにしないで、どういう形で市民に使ってほしいというふうに紹介されているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

竹之内教育次長。〔教育次長 竹之内 豊君登壇〕

○教育次長（竹之内 豊君）

先ほどお話をしました、出生時に出生届においてになったお母さんにお渡しする子育て支援の総合的なハンドブック、こういった中で雨が降ったときの遊び場という形で、まだジオパルはそこには載ってないんですが、他の3施設についてはどうぞと、ビーチホールまがたま、能生児童館、それから青海のふれあい、こちらへどうぞお出かけくださいというご案内をさせていただいておりますので、わんぱくホリデーという名称は使っておりませんが、実質的に、この事業と同じ使い方の呼びかけをさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

保坂議員。

○6番（保坂 悟君）

最後、ちょっと1つ要望になると思いますが、わんぱくホリデーから少し逸脱するんですけども、鉄道のまち糸魚川というアピールもしている関係で、JR大糸線やえちごトキめき鉄道ひすいラインにおいても汽車に乗りながら、ジオパルを使ったわんぱくホリデーをセットで考えて、おじいちゃんと子供たちが電車に乗りながらまたジオパルで遊ぶ、雨の日は電車で遊ぶみたいなキャッチフレーズで、できれば、このわんぱくホリデーチケットみたいなものも考えながら、利用促進という部分でもやっていただければおもしろいかなと思いますので、これは要望にさせていただきます。

以上で、私からの一般質問を終わります。

○議長（倉又 稔君）

以上で、保坂議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ延会といたします。

大変ご苦労さまでした。

午後4時38分 延会

地方自治法第 1 2 3 条第 2 項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員

+